

【1-c】カリキュラムマップ（芸術教養センター）

芸術学部 ディプロマ・ポリシー		
人間力 自立したひとりの人間として 生きるための基盤の力	知識	人間、社会、自然等に関する知識・情報を体系的に収集・理解できる
	思考力	正しい情報をもとに、物事を論理的に考えることができる
	行動力	自らを律しながら、設定した課題に粘り強く継続的に取り組むことができる
	倫理観	自らの良心に従い、社会のために芸術・デザインの力を活かすことができる
創造力 芸術の力を 社会のために活かす	発想力	豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめることができる
	構想力	概念・イメージなどを紡ぎ合わせ、テーマ・仮説として練り上げることができる
	表現力	テーマ・仮説などを、様々な媒体によって可視化し提案することができる

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
クリエイティブワークショップI	選必	1・2年次（2021年度のみ、必要に応じて2022年度も）	演習	3	80THK1S01	前期		◎	○		△	◎	○	自身で正解のない問いを生み出し、様々な答えを出し続ける。	社会に対しどのような関わりが可能か、社会が抱える問題を提起しどのような答えを導き出せるのか、その為の基礎となる豊かな人間力を養う。毎週、創造的な課題を設定して、解決するアイデア・方法を考え、正解の決まっていない問いに挑戦し続ける姿勢を作る。 学科、コースが異なるクラス構成であり、その多様性の中で今まで無意識に置いていた固定概念を取り払い、より包括的でとらわれない見方、自由な考え方の獲得を目指す。全クラスで行うペーパーファッションショー、又ねぶたデザインの案出しや模型制作なども行う。	課題に対し思考や方法を自ら考え、答えを導き出す姿勢を獲得することができる。 課題解決に向けて何事にも一歩踏み出す主体的な学習態度を獲得できる。 体験からの気づきを言語化し、他者と共有することができる。 テーマに沿ったデザイン・コンセプト案を協同で協議できる。
クリエイティブワークショップII	選必	1・2年次（2021年度のみ、必要に応じて2022年度も）	演習	5	80AXN1S02	夏期集中		○	◎				○	ねぶた創造 / グループワークにおける意思決定・協同作業と実行力	マンデイワークショップで培った個人の能力と組織力を基に巨大な白いねぶたを作る。与えられたテーマに対してグループ全体でひとつの成果を達成することを目指す。 多人数で物事を決める為には相互理解が重要であり、考え方、価値観、時間を共有し様々な実験と失敗を繰り返しながら自らが主体的に関わりを持ち協働で成果を上げる。グループでのヴィジョン・モチベーション・完成までのプロセスを明確にし、連体感と達成感を感じ、その歓びを共有する。	制作工程の中で出てくる問題を協議し、解決策を導き出すことができる。 お互いを認め目的の為に協働し、人的ネットワークを築くことができる。 主体的にグループのなかで役割を見つけ出し、行動に起こすことができる。
ことばとコミュニケーションⅠ	選必	1	講義	1	80THK1L03	前期	◎	◎					◎	大学生に必要なことばのワークショップ	「ことばとコミュニケーションⅠ・Ⅱ」は、1年生の前期に学科やコースを越えた少人数のクラス（1クラス20～30名程度）で履修する授業です。 これから大学生活を送るにあたって、また将来社会生活を送るにあたって、学びの基本となり、人間関係を築く基礎となる「ことば」を大切にし、よりよく用いる姿勢を共に考え、実際に運用していくことが授業の内容です。教員からの一方的な講義ではなく、グループでコミュニケーションしたり、文章を書いたり、プレゼンテーションしたりという実際の体験をとりいれたワークショップ的な展開で授業を行います。 ことばによるコミュニケーションや文章の書き方、プレゼンテーションのしかたに不安をもっている学生は特に歓迎です。	ことばで他者と適切なコミュニケーションができるようになること。 わかりやすく正確な書き言葉を学び、まとまった文章が書けるようになること。
ことばとコミュニケーションⅡ	選必	1	講義	1	80THK1L04	前期	◎	◎					◎	大学生に必要なことばのワークショップ	「ことばとコミュニケーションⅠ・Ⅱ」は、1年生の前期に学科やコースを越えた少人数のクラス（1クラス20～30名程度）で履修する授業です。 これから大学生活を送るにあたって、また将来社会生活を送るにあたって、学びの基本となり、人間関係を築く基礎となる「ことば」を大切にし、よりよく用いる姿勢を共に考え、実際に運用していくことが授業の内容です。教員からの一方的な講義ではなく、グループでコミュニケーションしたり、文章を書いたり、プレゼンテーションしたりという実際の体験をとりいれたワークショップ的な展開で授業を行います。 ことばによるコミュニケーションや文章の書き方、プレゼンテーションのしかたに不安をもっている学生は特に歓迎です。	プレゼンテーションに必要な準備とマナーを知った上で、実際に人前でプレゼンテーションができるようになること。
百科学	選必	1	講義	2	80THK2L05	後期		◎					○	京都芸術大学とはどのような大学なのか	各学科長（＋卒業生）からそれぞれの専門分野についてレクチャーを受けます。一人ひとりの学生はそれを契機に今後の大学生活の過ごし方について思索し、自分の感想・意見をまとめ上げて行きます。	キャリア（進路）に対する意識を高めるとともに、今後の創作活動に向けた連携・協力など、具体的な制作方法を構築することができる。
リーディングスキル	選必	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L06	前期・後期	◎	○	△		△	○	◎	在学中の学習、創作活動、将来の仕事で活きる日本語運用能力を育むきっかけをつかむ。	大学で学んだり創作活動をしたりする際、社会で仕事をする際、言語を利用したコミュニケーションが要る。本授業では日本語を利用したコミュニケーション、特に読み取りと表現の技術について学ぶ。例えば、私たちはSNSなどで写真や日本語を利用した広告を目にする。それらは広告を目にした人の興味関心をつかんだり、特定のウェブサイト消費者を誘導したりするのを目的にしたものだ。では、実際に京都に存在する飲食店について、A4一枚のスペースを利用して、文字やデザインによって、充分に紹介することが貴方にはできるだろうか。事前学習としてその「広告」作成に取り組み、4日間で集中的に読み取りと表現の技術を身につけてもらいたい。	1.事前学習ができた。2.事前学習や授業中の学習で、自身の考えを言葉にして説明・提出することができた。3.授業中の学習で、他の学生と協力して創作的活動ができた。4.授業中の学習で、創作物について言葉で説明することができた。5.授業中に、履修の成果として、まとめの課題を提出することができた。
英会話I	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP1L07	前期・後期		○	○				◎	海外でも日本でも使える日常英会話（初級英会話）	日常英会話に必要な単語や表現を学びます。相手を理解し自分を表現できる基本的な英語コミュニケーション力を身につけます。ペアワークを中心に、画像や映像も使って、楽しみながら基礎的な英語コミュニケーション力を磨きましょう。（CEFR A1レベル）	現在の英語能力のレベルと関係なく「苦手意識」を打ち破り、自分の強みと弱みを把握した上で英語を扱う自信を持ち、大学生活に必要な言語運用能力とコミュニケーションの能力をもつことができる。
英会話II	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP1L08	前期・後期	○		○				◎	WORLD ENGLISH 2 英語の4つのスキルを美しいイメージや映像で学ぶ（中級英会話）	鮮明なイメージや画像を使い、日常や社会に必要な英語表現のための4つのスキルを学びます。TED TALKSやNational Geographicsの映像を楽しみながら、話す、読む、聞く、書く技術をバランスよく磨きます。（CEFR A2レベル）	様々な場面でコミュニケーションに役立つ英語力を伸ばします。自然な発話のリズムと抑揚に慣れ、継続して会話が続けられる英語力の獲得を目標とします。日常に必要な英語の語彙や読み説く力も目指します。
英会話III	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP1L09	前期・後期							○	英語で触れ合うグローバルな世界、世界のアート・デザインとつながる英語表現（上級英会話）	急速にグローバル化する社会で生かすことのできる英語による情報収集力とコミュニケーション力を学習します。専門各学科での学びと成果を英語で発信し、対話します。好奇心を持ち積極的に英語での資料検索を行い、海外または国際的な芸術活動を調査し、応募するトレーニングを行います。（CEFR B1レベル）	「英和・和英辞書など」を使いこなし、自分の制作活動や情報発信に向けて、自ら積極的に取り組み、英語を活用できるようになる。
英語基礎	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP1L10	前期・後期	○	○					◎	英語の基礎文法、文の構造、必須英単語学習／模試対策（キャリア初級英語）	社会、就活に必要な英語の基礎の基礎に立ち返り、英語という言葉の成り立ちやルール、最低限必要な単語を練習問題とていねいな解説によって学習します。（CEFR A1レベル）	英語の基本ルールと語彙を身につけることができる。今まで不確かであった文法や英文の成り立ちを理解することができる。模擬試験の準備ができる。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
キャリア英語基礎	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP1L11	前期・後期	○		○				◎	就職や社会で役立つビジネス英語。キャリア英語資格試験の受験準備、支援（キャリア中級英語）	国際化が加速する中、ビジネスでの共通語として英語力を持つ人材が求められ、就職試験や就職後の部署決定に、TOEICのスコアを重視する企業が増加しています。日常にも使える英語の単語数を増やし、重要な文法を押さえながら、ビジネス英語を楽しく学べる環境を工夫します。（CEFR A2レベル）	本授業が設定する英語の表現レベル達成。試験で確認し、到達しない場合は不可とする。TOEIC L&R受験準備を通して、英語の語彙を増やし、重要な文法項目を確認することができる。
キャリア英語応用	選択	2・3・4	講義	2	80EXP2L12	前期・後期			◎				◎	就職や社会で役立つビジネス英語。キャリア英語資格試験の受験準備、支援（キャリア上級英語）	国際化が加速する中、ビジネスでの共通語として英語力を持つ人材が求められ、就職試験や就職後の部署決定に、TOEICのスコアを重視する企業が増加しています。企業で社会で求められるビジネス英語の単語数や慣用表現を増やし、重要な文法項目を押さえながら、仕事で使える英語を学習します。（CEFR B1レベル）	本授業が設定する英語の応用レベル到達。試験で確認し、到達しない場合は不可とする。TOEIC L&R 受験準備を通して、語彙や慣用表現を増やし、国際化する社会で英語を役立てることができる。
Academic English	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L13	前期・後期	◎	○					◎	TED TALKSのプレゼンターから学ぶ英語表現力 海外留学・進学、海外就職のための実践英語（上級英語）	世界のトップ・プレゼンターによる説得力のあるプレゼンテーションと鮮明な画像と動画により、効果的な英語表現法を学びます。知的で、興味深い内容を楽しみながら、英語の4つのスキルをバランスよく身につけることができます。（CEFR B2レベル）	世界の様々な人々の意見や考えを理解し、自分自身の考えや意見を獲得する。知識や語彙を増やしながら、4つのスキルと英語による表現力を高めることができる。
Academic EnglishII	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L13	前期・後期	◎	○					◎	TED TALKSのプレゼンターから学ぶ英語表現力 海外留学・進学、海外就職のための実践英語（最上級英語）	世界のトップ・プレゼンターによる説得力のあるプレゼンテーションと鮮明な画像と動画により、効果的な英語表現法を学びます。知的で、興味深い内容を楽しみながら、英語の4つのスキルをバランスよく身につけることができます。（CEFR B2レベル）	世界の様々な人々の意見や考えを理解し、自分自身の考えや意見を獲得する。知識や語彙を増やしながら、4つのスキルと英語による表現力を高めることができる。
キャリア研究基礎	選択	1	講義	1	80AXN2L14	後期	○		◎					理想の学生生活・将来設計（進路）をつくる	大学入学からマンデー・ねぶたを振り返りながら半年が過ぎた今、これからの大学生活をいかにつくるかをテーマに、対話し、問いを重ね、修正し、実践してゆく。その対話を通して様々な意見を聴き、自分のなかにあるエンジンを発見する授業。	理想的な学生生活づくりに向けて、自らゴール（到達目標）を描き、行動することができる
キャリア研究実践	選択	2	講義	2	80AXN2L15	後期	○		◎					自己理解・職業理解を深め、インターンシップに向けて準備&実践する	3年次から始まるインターンシップ・就職活動に向けて、①自己理解（自身の活動を振り返り、言語化する）②職業理解（世の中にある職業・業界、さらに京造先輩の就職先をモデルに企業分析する）③志望業界・職種を「やりたい」と「できる」の2方向定め、④3年次4月～行動計画を立て、実践していく。	①履歴書完成＝自身の活動を言語化できる②志望する2つ以上の職種・業界を見つけ、研究できている③就職ナビサイトの使い方がわかり、エントリーできる状態をつくる④インターンシップ応募企業を5社以上見つけている。
就職対策特講	選択	3	講義	1	80AXN3L16	前期	○		◎					インターンシップ・就職試験に向けて、準備&実践する	インターンシップエントリー解禁日の6月1日に向けて、就活準備を進め、6月1日以降は実際にエントリー・応募していく。隔週開講の全7.5回の授業で自己理解・企業分析・履歴書作成・ナビ登録・エントリー・選考試験対策（グループディスカッション、面接など）まで全てを実践的におこない、就活準備を8割方完成させる。	自己PR300文字程度を完成させ、その内容を京造サイト・就職ナビサイトのいずれかに登録完了。就職ナビサイトを使って夏インターシップ実施企業5社以上にエントリーできており、選考対策（グループディスカッション・面接・Webテスト）を一通り実践し、自分で就活を進められる。
数学基礎Ⅰ	選択	1・2・3・4	講義	2	80THK1L17	前期		◎	○					大学生に必要な数学基礎/最頻出問題	大学での学修ならびにキャリアデザインに必要な数学力の基礎を身につける。計算力はもちろんだが、大学での授業、実生活、社会に出たときに使える「実用性の高い数学」を学ぶ。これまで算数・数学に苦手意識のあった人こそ受けてもらいたい授業。※Ⅰは最頻出問題群に取り組む。	本授業が設定する数学の基礎レベル到達。試験で確認し、到達しない場合は不可とする。
数学基礎Ⅱ	選択	1・2・3・4	講義	2	80THK2L18	後期			◎	○				大学生に必要な数学基礎/頻出問題	大学での学修ならびにキャリアデザインに必要な数学力の基礎を身につける。計算力はもちろんだが、大学での授業、実生活、社会に出たときに使える「実用性の高い数学」を学ぶ。これまで算数・数学に苦手意識のあった人こそ受けてもらいたい授業。※Ⅱは、Ⅰの内容とは異なる頻出問題群に取り組む。	本授業が設定する数学の基礎レベル到達。試験で確認し、到達しない場合は不可とする。
数学基礎Ⅲ	選択	2・3・4	講義	2	80THK2L19	前期			◎	○				大学生に必要な数学基礎/準頻出問題	大学での学修ならびにキャリアデザインに必要な数学力の基礎を身につける。計算力はもちろんだが、大学での授業、実生活、社会に出たときに使える「実用性の高い数学」を学ぶ。これまで算数・数学に苦手意識のあった人こそ受けてもらいたい授業。※Ⅲは、Ⅰ・Ⅱの内容とは異なる準頻出問題群に取り組む。	本授業が設定する数学の基礎レベル到達。試験で確認し、到達しない場合は不可とする。
デッサン演習入門	選必	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S20	前期	○		○				◎	ものを見て描き、見る力を鍛える	卓上で基本的な形態のモチーフを組み合わせて鉛筆で描き、観察をすることを通して見方・捉え方を養う。 鉛筆の削り方から、調子のつけ方、量感の捉え方、構図について理解する。	ものをよく観察し、様々な情報の中からものの見え方、構造を理解することが出来る。 形を量感と明暗調子で捉え、描くことが出来る。
デッサン演習基礎	選必	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S21	後期			○				◎	人体や石膏像を描き、ものの構造を探究する	人体クロッキーや石膏像を時間をかけ繰り返し描きながら構造的な形を捉える。他者のデッサンと自分のデッサンを見比べ、ものの見方・捉え方に多様な視点があることに気づいていく。	ものを見て構造的に形を捉え描く事が出来るようになる。 他者の描いたデッサンと自分のデッサンとを比較し、自身のものの見方、捉え方を発見することが出来る。 継続して描くことで探求力を養うことが出来る。
デッサン特殊演習Ⅰ	選必	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S22	夏期集中	△	○					◎	人間を描く・石膏像ベルベデーレに挑む	絵画・彫刻等ファインアートのみならず、デザイン、建築、演劇、映画、などの表現には人物を主題とする作品が多くみられる。デッサンの観点から身体の構造を学び表現活動に生かすため、美術的背景も踏まえ、トルソーの大型石膏像（ベルベデーレ）を描き、身体を表現する確かな目を養う。デッサンコンクール形式の集中制作によってデッサン力の向上を目指す。	石膏像（トルソー）の構造を理解し描けるようになる。 かたちの動き、構造、量感、比例を的確に捉え描くことができるようになる。 コンクール形式によって他者と比較できる状況で自己のデッサンに対して客観的な視点が得ることができる。
デッサン特殊演習Ⅱ	選必	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S23	夏期集中	△	○					◎	人間を描く・人体ヌードを追求する	絵画・彫刻等ファインアートのみならず、デザイン、建築、演劇、映画、などの表現には人物を主題とする作品が多くみられる。デッサンと美術解剖的観点から身体の構造を学び、人体ヌード（女性）を描き、身体を表現する確かな目を養う。デッサンコンクール形式の集中制作によってデッサン力の向上を目指す。	人体の構造を理解し描けるようになる。 かたちの動き、構造、量感、比例を的確に捉え描くことができるようになる。 コンクール形式によって他者と比較できる状況で自己のデッサンに対して客観的な視点が得ることができる。
創造的工房論	選必	1・2・3・4	講義	2	80THK2L24	後期		◎				○		工房を活かしたクリエイションについて学ぶ	毎回のづくりに関わるさまざまな分野から異なる講師が、制作プロセスや研究・開発事例などおのの創作の現場について講演し、それらの事例から次代のものづくりを見据えて、大学の工房を自分の創造の場として活用することの指南となることを目指す。	1)クリエイションの現在を知り、新たなものを生み出すことに希望を見出し、自分の興味、関心や将来のビジョンを発見できる。 2)工房とクリエイションの関係を考察しながら、工房を自分の制作や研究にどのように活かすことができるかを具体的に想定できる。
ウルトラトライアル	選択	1・2	演習	2	80CEP1S25	前期・後期		△				◎	○	造形のための基礎的なリテラシーを習得する	シルクスクリーンや注型成形などのアナログ造形技術、CADやレーザー加工などのデジタル造形技術を横断的に扱い、実験的に手を動かしながら試していくことで、様々な素材や機材の特性を活かし、柔軟に作り方を考えるものづくりへの態度を身につける。	1)実習を通じて扱った様々な素材、加工技法、機材の使用法についての知識を身につけ、造形に活用することができる。 2)習得した知識から、新たな加工法を探索し、失敗から得たことを活かす実験的思考をものづくりに応用することができる。
自然と芸術	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW2L26	後期	◎	○						さまざまな学問分野の視点を知り、「自然」に学ぶ姿勢を身につける。	「だめな画家は画家に学ぶ。すぐれた画家は自然に学ぶ」とは、レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉です。この講義では、天地人、すなわち宇宙、地球、生物に関するさまざまな学問分野の専門家から、自然や、その一部として生きる人間について学びます。自然に目を向け、そのおもしろさを切り取るセンスを磨くために、俳句を詠むことにも挑戦してもらいます。	さまざまな視点から自然について学ぶことで、芸術やデザインなどの表現に携わるうえで重要な、見る（感じる）力、考える力、疑問をもって探求する力を磨く。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
西洋の美術入門	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L27	前期	◎	○						これだけは知っておきたい西洋の美術	芸術を専門として学ぶ皆さんは、西洋の代表的な美術作品を知ることでも大事なことです。西洋の美術作品というと、遠い世界のものという印象をもつ人もいるでしょう。いにしえの美術であれば、現代とは関係ないと思われる人もいるかもしれませんが、しかし、代表的な西洋の美術作品を知っておくことは、芸術を専門とする皆さんに期待されている教養なのです。 授業では代表的な西洋の美術作品を取り上げます。「代表的」とは単に有名作品ということではなく、作られた当時も現代においても多くの影響を与え続けるような作品を指します。そうした作品を知ることが、皆さん自身の制作や研究をおこなう上でのヒントになるはずです。	西洋の各時代、各様式の基礎的な特徴を把握し、その造形理念を理解するとともに、19世紀初頭までの西洋美術史の軸となってきた事物を理解する。自身の制作や研究のためのヒント、欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。
芸術史Ⅰ	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L28	前期・後期	◎	○						西洋美術史の2本の軸	西洋の芸術史を理解する上で大事なことは、「軸が2本ある」ということです。発祥の順に挙げると、ひとつは「古典文化」であり、もうひとつは「キリスト教文化」です。15世紀のルネサンス以降、両者は絡み合って、いっそう豊かな文化を創り出しました。授業では、古代ギリシアから19世紀初頭までの西洋の造形芸術史をほぼ時代順に概観していきます。絵画や彫刻を、それらが置かれている建築や都市の空間との関係を含めて考察していきます。また、それぞれの作品が誕生した社会や歴史、美術家同士の関係、美術家と委嘱者との関係、絵画化された主題は何か、なども視野に含めて検討していきます。過去に作られた作品がもっている現代的な意味は何か、ということも考えていきたいと思います。学生諸君の制作や研究のためのヒント、欧米諸国への旅行を十分に楽しむためのヒントもきっと見つかるでしょう。	西洋の各時代、各様式の基礎的な特徴を把握し、その造形理念を理解するとともに、19世紀初頭までの西洋美術史の軸となってきた事物を理解する。自身の制作や研究のためのヒント、欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。
芸術史Ⅱ	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L29	前期・後期	◎	○						19世紀から現代までの芸術の変遷を考える	19世紀半ばから20世紀までの、およそ150年間の欧米における造形芸術史を概観します。この150年間は、芸術においてもさまざまな「主義」・「主張」が見られます。授業では、ほぼ時代順に多彩な「主義」・「主張」を、作品を見ながら考察していきます。それぞれの時代の社会や文化全体に留意しながら、多彩な「主義」・「主張」の前後関係も検討していきます。新しい作品はどのように誕生するのか、という根本的は問いに対する回答のためのヒントを得られるでしょう。もちろん、学生諸君の制作や研究のためのヒント、欧米諸国への旅行を十分に楽しむためのヒントも見つかるでしょう。	19世紀半ばから20世紀までの芸術の変遷を理解し、各時代のアートシーンにおける基礎的な特徴を把握する。 自身の制作や研究のためのヒント、欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。
芸術史Ⅲ	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L30	前期	◎	○						前近代の日本を中心とした工芸、文様デザインの特徴と動向	豊かな精神文化のもとで生活に彩りを与えてきた東洋、日本の生活芸術である工芸作品、意匠デザインについて考えます。芸術史Ⅲでは奈良・平安時代～江戸時代の重要な日本文化の動向と、生活芸術、工芸美術の特徴を紹介します。	奈良・平安時代から江戸時代までの日本美術史の変遷を自分のことばで説明できる。また各時代、各様式の基礎的な特徴や造形理念に照らし合わせて、代表的な作品について説明できる。
芸術史Ⅳ	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW2L31	後期	◎	○						近代日本を中心としたの工芸、装飾デザインの動向と諸相	豊かな精神文化のもとで生活に彩りを与えてきた日本の工芸文化と工芸美術・デザインについて考えます。芸術史Ⅳでは、欧米の芸術観と直面した明治時代以後の近代工芸の軌跡と多様な現代の状況を、他の領域、例えば絵画の動向などにも目配りをして紹介します。	明治時代から現代までの日本美術史の変遷を自分のことばで説明できる。また各時代、各様式の基礎的な特徴や造形理念に照らし合わせて、代表的な作品について説明できる。
日本国憲法	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L32	前期・後期	◎	○						日本国憲法というフィルターを通して日本社会のカタチを見つめ直す	自由・平等・基本的人権・平和。現代の日本社会に生きる我々が、あたりまえのように享受するこれらの恩恵は、昔から当然に与えられてきたものではありません。日本国憲法を通じて、国民が、国家にその保障を約束させたことで成り立っています。他方、現実の社会では、その変化に応じて、それらの恩恵の内実や、その保障のあり方を巡り、議論が戦わされています（e.g. 集団的自衛権や同性婚に関する議論）。このように、日本国憲法には、日本社会が「どのようなものであり、どのようなものであるべきか」という、そのカタチが凝縮されているのです。そこで、本講義では、日本国憲法というフィルターを通して、日本社会のカタチに迫ります。	1. 「法とはなにか」、「憲法とはなにか」を理解する。 2. 日本国憲法を通して日本社会を見つめ直すことで、法的思考力を身につける。
人権教育	選択	1・2・3・4	講義	2	80THK1L33	前期・後期	○	◎	○					さまざまな人権問題を学び、その問題の解決に向けて考えること	この授業では、さまざまな映像を見ながら、現代社会でみられる人権問題の多様性に関して学ぶことを目的とする。学校における人権、女性と人権、LGBTと人権、戦争と人権、冤罪問題と人権などにおいて、人々がその問題を抱えてどのように生活して暮らしているか具体的に映像を交えながら講義する。	人権問題の多様性と共通性を学び、解決に向けて自分の視点から考えることが可能になること。
社会学基礎Ⅰ	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK1L34	前期・後期		◎				◎		社会学の見方を知る（基本）	具体的な例を扱いながら社会学の基本的な考え方を知り、それをもとに日常生活、もしくは社会的・国際環境的な諸問題へアプローチする方法を学ぶ。	異文化、日本社会および文化、情報とメディアなどを題材に、社会学的なアプローチからレポートが書けるようになること。
社会学基礎Ⅱ	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK1L35	前期・後期		◎					◎	社会学の見方を知る（発展）	社会学の基本的な方法論を踏まえて、グローバル化とエスニシティなど、現代の日本社会にとって課題とされる諸現象を分析し、将来を展望する。	日本社会を社会学的なアプローチから分析でき、それをもとに具体的な将来の展望を語るレポートが書けるようになること。
社会学Ⅱ	選択	2・3・4	講義	2	80THK2L36	後期	○	◎						人間と社会	社会学の基本的視点を学び、マクロな視野と我々の身近な問題を重層的に考察する。具体的には、ネオ・リベラリズムと中心に、経済と社会というマクロな変化、就職活動とブラック企業、就職活動とうつ病の防止、現代家族の変化や、不登校などの教育問題を通じて、人間が社会の中で生きること考察する。アートによる地域のなかでの居場所づくり等、社会とアートとの関係も考察する。リアリティをもってもらうために、各回、ドキュメントなどの映像をみながら講義をおこなう。	社会学の基本的視点を学び、社会的諸現象を理解し、レポートを作成できるようになること。
美術論	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L37	前期・後期	◎	○						「19世紀から20世紀までの日本における西洋美術論の受容と展開」	「美術」という言葉はいつ誕生し、当初は何を指していたのでしょうか。そして現代では何を意味するのでしょうか。いろいろな角度から「美術」について考察していきます。 具体的には、19世紀から20世紀までの日本における西洋の美術論の受容と展開を、代表的な美術論・絵画論、書簡などをもとに考察していきます。それぞれの美術論において理想とされた「形」を理解し、その理論が誕生した社会・文化にも目配りしていきます。 学生諸君の制作や研究のためのヒント、欧米諸国への旅行を十分に楽しむためのヒントも見つかるでしょう。	19世紀から20世紀までの日本で受容された西洋の美術論の主旨と、そこで理想とされた美術作品を理解する。
美術史	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L38	前期・後期	◎	○						美術史の基礎	人類は古代より、造形と言う営みを続けてきた。造形作品には、時代ごとの世界観が反映されている。とりわけ、神と人間との関係を映し出す宗教美術からは、それぞれの時代の世界観を読み解くことが出来る。美術の歴史は、宗教の歴史であるとも言える。宗教との関係が希薄となった現代、我々を造形へと向かわせる動機は何か。自分自身の問題としてこの問いに向き合い、考えるきっかけとして欲しい。	(1)古代から20世紀に至る美術史の流れを通史的にたどり、個々の作品を理解するための基本的な知識を得る。 (2)芸術をめぐる通念が時代によって変遷していくことを理解し、現代の芸術表現について考えるための立脚点を得る。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
心と身体 の健康 I	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L39	前期・後期	○	○						身体 の健康 に関する基礎的理解	自分のことでありながら、疎かになりがちな健康は、病気や怪我をして初めてその重要性を感じるものです。学生生活を送るにあたり、あらゆる角度から健康を考え、自分を知り、自身を守る基礎知識を学び、これからの生活に大いに役立ててもらいたいと思います。 7回という少ない回数ですが、どうしても知っておいて欲しいこと、覚えておいて欲しい内容を伝えたいと考えています。	・自分で自分を守る知識を修得する ・運動の必要性を知り、心身への意識改革ができるようになる ・自身に降りかかる身近な問題から健康を考えられるようになる
心と身体 の健康 II	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L40	前期・後期	○	○						心 の健康 の基礎的理解	充実した生活を送る上で、心 の健康 は大切です。この授業では、心 の健康 について、とくに大学生年代にかかわりの深い事項を取り上げます。大学生の時期の心理的発達への理解も深めつつ、自分らしく健康的な大学生活を探りましょう。	・授業で学ぶ心の健康に関する基礎的事項を説明できる。 ・心の健康のために自分自身を見直し、改善点に気づくことができる。
体育実技I	選択	1・2・3・4	演習	2	80AXN1S41	前期・後期	○	○	○					「体力向上とスポーツを通してのコミュニケーション作り」	身体活動を行うことで自分自身の心身の状態を知り、体力の向上、心 のケア を目的に授業を進めます。 活動内容は、バレーボール・バドミントン・インディアカを行います。	身体活動を通して心身の活性化をはかり、自分自身の能力の可能性を広げることを目指します。
体育実技II	選択	1・2・3・4	演習	1	80AXN2S42	後期	○	○	○					「心と体 の健康 の保持増進」	自分自身の身体 の状態 を知り、身体活動を通して健康の維持と体力の向上をはかり、様々な可能性を引き出すことを目標とします。また、主体的に取り組むことや、他者との交流を通して感情を表現する楽しさを習得します。身体活動では、レクリエーション、バレーボール、バドミントン、バスケットボールを実施します。	・身体活動を通して達成感と喜びを味わい、心と体の健康と自分自身の可能性を広げること。 ・主体的に取り組み、技術の向上を目指すこと。
体育実技III	選択	1・2・3・4	演習	1	80AXN2S43	後期	○	○	◎					「硬式テニスとフットサル」体力向上とスポーツを通してストレス解消とコミュニケーション作り	積極的な身体活動を通じて体力維持・改善を図る能力を培う事を目的に授業を進めます。テニスではダブルスゲームが出来る技術習得を目標にします。フットサルは試合形式を重視しながら授業を行います。	・硬式テニス、フットサルを通して、身体活動をする事でストレスの解消。 ・ライフスタイルの改善。 ・自分自身の能力の可能性を広げること。
現代アート入門I	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK2L44	後期	○	○						現代 の社会 を、美術表現を通して形成される思考によって捉える、現代美術理解。現代美術入門編です。	20世紀は美術において最も大きな変革のあった時代と言われています。また21世紀もデジタル社会となって、我々の生活もアート環境も猛スピードで変貌しています。この授業では主に第二次世界大戦以後から現在までの美術/アートを概観し、社会的現象に対する反映概念によって生み出される今日の表現や行為について考察します。「現代アート入門I」ではその前半、戦後から1970年代の流れを紹介しします。	現代美術の歴史を旅すると思ってください。授業を聞くだけでなく、展覧会等の鑑賞を通して、自身の眼と感性によって現代美術への理解を深め、自己と社会、またその関係性を見つめることで良き理解者となり、今日の美術/アートに興味を持てる存在になっていくことを目標とします。
現代アート入門II	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW2L45	後期	○	○						現代 の社会 を、美術表現を通して形成される思考によって捉える、現代美術理解。現代美術入門編です。	20世紀は美術において最も大きな変革のあった時代と言われています。また21世紀もデジタル社会となって、我々の生活もアート環境も猛スピードで変貌しています。この授業では主に第二次世界大戦以後から現在までの美術/アートを概観し、社会的現象に対する反映概念によって生み出される今日の表現や行為について考察します。「現代アート入門II」では1970年代以降の流れについて紹介しします。	現代美術の歴史を旅すると思ってください。授業を聞くだけでなく、展覧会等の鑑賞を通して、自身の眼と感性によって現代美術への理解を深め、自己と社会、またその関係性を見つめることで良き理解者となり、今日の美術/アートに興味を持てる存在になっていくことを目標とします。
写真論I	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW2L46	前期	◎	○					△	「写真」を知る	美術に限ったことではなく、日常生活の中で必ずどこかで目にする“写真”。カメラ付携帯電話やデジタルカメラ、インターネットの普及によって、写真の特性や作品の意味、そして、その利用方法や表現方法は無限の広がりを見せ始めています。この授業では、写真についての基礎知識を習得し、受講する学生の制作および研究に役立つ、一つのツールとなることを目指します。	写真というメディアについての基礎知識を身につけ、受講生各自の表現および研究領域が拡大できるようになる。
写真論II	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW2L47	前期	◎	○					△	「写真」を考える	この授業は写真論に連携して、写真や撮影技術についての基礎知識を習得し、受講する学生の制作および研究に役立つ、一つのツールとなることを目指します。	撮影技術についての基礎知識を身につけ、受講生各自の表現および研究領域が拡大できるようになる。
文学I	選択	1・2・3・4	講義	1	80CEP1L48	後期	○				◎	◎		文学入門	いくつかのテーマのもとに主として日本文学の作品を取り上げ、学生が文学作品と出会う手助けとしたい。文学は言語と切り離せないものであるので、最初の授業では、日本語の性質について、知識を整理する（ただし、授業では日本語以外の言語で書かれた文学作品も翻訳で取り上げる）。続く授業では、神話や説話などに典型的に見られる「話型」についていくつかを挙げ、古典と近現代文学を横断して読んでみたい。なお、授業の最後に毎回コメントカードを書いてもらい、その中から抜粋して匿名で次週にフィードバックするので了解されたい。	文学作品に親しみ、主体的に各自の研究や制作、思索の糧として生かすことができるようになること。
文学II	選択	1・2・3・4	講義	1	80CEP1L49	後期	○				◎	◎		文学入門	いくつかのテーマのもとに主として日本文学の作品を取り上げ、学生が文学作品と出会う手助けとしたい。文学IIでは、文学Iの内容をふまえつつ、「夢」「子ども」「都市」など、いくつかのテーマを設定して、日本の近現代文学を中心に作品を選んで読んでみたい。 なお、授業の最後に毎回コメントカードを書いてもらい、その中から抜粋して匿名で次週にフィードバックするので了解されたい。	文学作品に親しみ、それを各自の研究や制作、思索の糧にできるようになること。
芸術と心理	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L50	前期・後期	○	○						臨床心理学と芸術療法を中心とした心理療法	この授業では、臨床心理学と心理療法、特に芸術療法を中心にテキストにそって講義する。具体的に現在非常に増加している拒・過食症等の摂食障害、ひきこもり現象、青少年期のうつ病、心的外傷等の現象に関して考察する。芸術療法に関しては、具体的に映像や作品をみながらおこなっていく。	臨床心理学や芸術療法の基本的視点を学び、心理的諸現象の多様性を理解し、レポートを作成する能力の獲得。
宗教学I	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L51	前期	◎	◎				◎		宗教の成立と展開Ⅰ：多神教世界から見た一神教世界	「宗教」の成立と展開を歴史的に分析する。この場合の「宗教」とは「人間とは何か」を前提にした広い視野の精神文化で、歴史上の既成教団宗教だけでなく、「人間とは何か」の問いをもった人間の精神活動を含む。ポール・ゴギャンの傑作「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」という問いを考えるのがこの授業の目的である。その中でも特に、世界中で今、一神教信仰に関わっているかのような現実があちこちでおこっていて、多神教世界に住む私たちにとってなじみの薄い一神教宗教の成立とその後の展開を歴史的に検証する。	一神教と多神教、そしてその考え方や思考・文化の差異をきちんと説明し、レポートにおいて具体的に表現できること。
宗教学II	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L52	前期	◎	◎				◎		宗教の成立と展開Ⅱ：芸術と宗教	先史時代から現代まで、われわれに残された人類の代表的な「世親活動の結実」＝造形表現（芸術）を概観し、その形の背景にある人間観・宗教観を考察する。	芸術の背景にある宗教的な認識や世界観の基本を知り、それをもとに作品を具体的に説明できるようになること。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
法学I	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK1L53	前期・後期	○	○		○				社会に生きる法	「なぜ法は存在するのか」。「なぜ法を守らなければならないのか」。「そもそも、法とは何なのか」。日常生活とは切り離せない存在であるはずの「法」には、たくさんの「わからないこと」があります。本講義では、法学の基本的な知識を獲得してもらいつつ、法とは何かを学び、法的なモノの見方を身に付けてもらう中で、法が守ろうとする「価値」を探究してもらいたいと考えています。そうした探究を通じて、「自分の見方だけが正しいとは限らない」、「いろいろな見方があるって当然だ」ということを痛感してもらいます。 前期前半の講義では、憲法や刑法・刑事訴訟法といった、国家と個人の関係を定める法を素材に、法学の基礎を学んでもらいます。芸術大学に通う皆さんにとって、表現の自由をはじめとする憲法上の人権規定は身近なものでしょう。また、自分が作品を公表したことで、何らかの罪に問われるのか、万が一にも刑事手続にかけられた場合、自分はどう扱われるのか、どうすればいいのかを学ぶことも有意義です。加えて、裁判員制度が導入されている現在、刑事法も、やはり他人事とはいえません。自らがこれから経験する可能性のある問題、いわば「自分ごと」として、講義内容の積極的な理解に努めてください。	法学の基本知識を獲得し、法的なモノの見方を身に付けることができる。
法学II	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK1L54	前期・後期	○	○		○				社会に生きる法	「なぜ法は存在するのか」。「なぜ法を守らなければならないのか」。「そもそも、法とは何なのか」。日常生活とは切り離せない存在であるはずの「法」には、たくさんの「わからないこと」があります。本講義では、法学の基本的な知識を獲得してもらいつつ、法とは何かを学び、法的なモノの見方を身に付けてもらう中で、法が守ろうとする「価値」を探究してもらいたいと考えています。そうした探究を通じて、「自分の見方だけが正しいとは限らない」、「いろいろな見方があるって当然だ」ということを痛感してもらいます。 前期後半の講義では、民法や知的財産法、労働法といった、みなさんがこれからクリエイターとして生きていくうえで、とくに関わりの深い法を素材に、法学の基礎を学んでもらいます。「自分の作った作品や撮影した写真が、無断で他人に使われていた」。「作品を納品したのに、契約書がなかったために、対価が支払われなかった」。こうした「ものづくり」をめぐる様々なトラブルに巻き込まれ、不利益を被らないために必要な、基本的な対処法を学ぶことは、みなさんにとって大きな意義をもつでしょう。自らがこれから経験する可能性のある問題、いわば「自分ごと」として、講義内容の積極的な理解に努めてください。	法学の基本知識を獲得し、法的なモノの見方を身に付けることができる。
政治学	選択	1・2・3・4	講義	2	80THK1L55	前期	○	○						現代の政治を知り、自分ごととして捉える	選挙権が18歳に引き下げられ、政治に関する学生・生徒の動きもしばしば報道されるようになった。しかし、自分の身の回りでは、政治を身近に考える機会はそれほどない。そんなあなた、一緒に今の政治を考えてみませんか。この講義では、映画に描かれる政治の姿を通して現代政治のイメージをつかみ、政治学的なものの見方・考え方を講義によって理解しながら、現実の政治の動静や事情を概観し自分ごととして考えていくことをめざします。	・現代政治の基本的なしくみや政治学的観点を理解すること ・政治情勢や地域課題を論理的に捉えられるようになること
素材論I	選択	1・2・3・4	講義	1	80CRE1L56	前期・後期		○			○	○	○	人文社会科学とサイエンスに渡るさまざまな分野の科学とその素材と技術、思考方法について、社会的側面そして芸術的展開を総合的、かつ経済から先端科学まで分野横断的に学びます。	基本的かつ初歩的な自然科学のたくさんの不思議な話をから始めます。基本的な自然科学のセンスを身につけ、さまざまな自然科学的な思考ができることをめざします。できるだけ身近な基本的な自然科学の不思議な現象とそこへの発想と手法を用いて、自然現象のなんらかの性質や規則性あるいは不規則性からいくつかの重要な原理をさらにはその芸術性を見いだします。そのような自然科学の原理からの手法は、幅広い分野で応用されています。医学(疫学)、看護学、薬学、経済学、社会学、心理学、言語学など、自然科学・社会科学・人文科学のほぼ全分野にわたるわかりやすい分野を例にして話を進めます。また、自然科学は哲学の一分科である科学哲学においても重要なひとつのトピックスであることも理論とそれを発展させた自然科学分野の偉人の格闘を交えて、人類の芸術的至宝と呼ばれるさまざまな発見と思考に近づきます。	さまざまな思想、技術とそこで用いるさまざまな素材と科学についての一人一人の創造性への土台づくりからグローバル化した現代社会に向けての多様な発展的なアプローチをめざします
素材論II	選択	1・2・3・4	講義	1	80CRE1L57	前期・後期		○			○	○	○	人文社会科学とサイエンスに渡るさまざまな分野の科学とその素材と技術、思考方法について、社会的側面そして芸術的展開を総合的、かつ経済から先端科学まで分野横断的に学びます。	基本的かつ初歩的な自然科学のたくさんの不思議な話をから始めます。基本的な自然科学のセンスを身につけ、さまざまな自然科学的な思考ができることをめざします。できるだけ身近な基本的な自然科学の不思議な現象とそこへの発想と手法を用いて、自然現象のなんらかの性質や規則性あるいは不規則性からいくつかの重要な原理をさらにはその芸術性を見いだします。そのような自然科学の原理からの手法は、幅広い分野で応用されています。医学(疫学)、看護学、薬学、経済学、社会学、心理学、言語学など、自然科学・社会科学・人文科学のほぼ全分野にわたるわかりやすい分野を例にして話を進めます。また、自然科学は哲学の一分科である科学哲学においても重要なひとつのトピックスであることも理論とそれを発展させた自然科学分野の偉人の格闘を交えて、人類の芸術的至宝と呼ばれるさまざまな発見と思考に近づきます。	先端的なさまざまな思想、技術とそこで用いる多岐に渡る素材と科学についての学生一人一人の創造性への土台づくりからグローバル化した現代社会に向けての多様な発展的なアプローチをめざします
異文化コミュニケーションI	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP1L58	前期		◎			○		◎	日本人学生と外国人留学生が日本語による交流を通して共に学び合う	日本人学生と外国人留学生が様々なタスクを通して、それぞれの違いを生かしながら協力することにより、コミュニケーションやソーシャルスキルを高めることを目的としています。タスクの内容は、自分の考えや思いを分かりやすく日本語にする協同作業が中心となります。日本人学生は異文化に触れることができます。外国人留学生は日本語を使うチャンスになります。	学生同士がお互いを通して、自身を見つめ直し、新しい自分を発見し、自己成長へとつなげることができるようになる
異文化コミュニケーションII	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP2L59	前期・後期		◎			○		◎	日本人学生と外国人留学生が日本語による話合いを通じて共に学び合う	日本人学生と外国人留学生が様々なテーマを通して、自国の文化や自身の習慣を振り返り、お互いの違いを認め、新たな関係性を築いていくことを目的としています。テーマの内容は、言語、食文化、職業など多岐にわたっています。日本人学生は異文化体験をすることができます。外国人留学生は日本語力の向上につながります。	学生同士がお互いを通して、自身を見つめ直し、新しい自分を発見し、自己成長へとつなげることができるようになる

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
日本文化論I	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L60	後期	◎	○						オリジナルとは何か―型破りの方法	創作・思索のヒントになる講座です。制作の壁にぶち当たったとき、思考が停止してしまった時、きつと役に立つ、そんな講義です。大事なことは、日本の文化はどのように作られてきたのかを知ること。演劇、絵画、小説、映画、アニメなどを取り上げ、日本文化の「方法」について学びます。	日本文化が型文化であることを説明できる。 自身の創作活動に応用することができる。
日本文化論II	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L61	後期	◎	○						歌舞伎を知れば日本がわかる	文化を理解するには、その文化や時代に固有の価値観を知る必要がある。歌舞伎の「物語」を読み解くことで日本人の価値観とは何か、日本文化とは何かを追究する。	西欧近代理論の視点では理解できない日本独自の文化が存在することを知る。
伝統文化演習I	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S62	前期							○	邦楽囃子	日本文化を支える精神を学ぶための演習。日本人の伝統的な身体感覚を取り戻すことは大変重要です。日本文化を支えてきた伝統の上にはじめて新しい創造が可能になるからです。芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚です。	メ太鼓、小鼓を打つことができるようになる。「型」を知れば「型破り」の表現ができることを理解する。
伝統文化演習II	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S63	前期					○	△	◎	日本舞踊（坂東流・藤間流）京舞（井上流）	日本文化を支える精神を学ぶための演習。日本人の伝統的な身体感覚を取り戻すことは大変重要です。日本文化を支えてきた伝統の上にはじめて新しい創造が可能になるからです。芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚です。	日本舞踊を踊ることができるようになる。 「型」を知れば「型破り」の表現ができることを理解する。
伝統文化演習III	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP2S64	前期・後期					○	△	◎	琵琶 常磐津	日本文化を支える精神を学ぶための演習。日本人の伝統的な身体感覚を取り戻すことは大変重要です。日本文化を支えてきた伝統の上にはじめて新しい創造が可能になるからです。芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚です。演習ですから、時間厳守、遅刻厳禁。途中放棄をしないという覚悟で望んでください。	琵琶を弾くことができるようになる。三味線を弾くことができるようになる。「型」を知れば「型破り」の表現ができることを理解する。
伝統文化演習IV	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S65	後期					○	△	◎	能 狂言	日本文化を支える精神を学ぶための演習。日本人の伝統的な身体感覚を取り戻すことは大変重要です。日本文化を支えてきた伝統の上にはじめて新しい創造が可能になるからです。芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚です。演習ですから、時間厳守、遅刻厳禁。途中放棄をしないという覚悟で臨んでください。	能は謡、仕舞ができるようになる。狂言は演目演じることができるようになる。「型」を知れば「型破り」の表現をすることができることを理解する。
伝統文化演習V	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S66	前期・後期					○	△	◎	華道 装花	日本文化を支える精神を学ぶための演習。日本人の伝統的な身体感覚を取り戻すことは大変重要です。日本文化を支えてきた伝統の上にはじめて新しい創造が可能になるからです。芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚です。演習ですから、時間厳守、遅刻厳禁。途中放棄をしないという覚悟で臨んでください。	華を活けることができるようになること。空間造形の感性を養う。「型」を知れば「型破り」な表現ができることを理解する。
伝統文化演習VI	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S67	前期・後期					○	△	◎	煎茶	煎茶という伝統文化を、座学と体験学習により基本的な知識を修得するとともに、伝統文化に広がる様々なものの考え方について理解を深めます。江戸時代の文人達によって大成された煎茶は、当時の画家、陶芸家、詩人、学者達が文人の余技として愛好し、独特の文雅な喫茶の世界を築きました。しかし現代では、日常あまりに親しい煎茶だけに、茶の湯と異なるもう一つの茶道としての歴史や、その芸術的世界はあまり知られていません。そこで、歴史や作法の面から煎茶の世界を理解するとともに、体験学習では、京都で二百年以上前から続く小川流の「滴々のお茶」と称される茶味により、味覚の面からもその理解を一層深めます。	茶室における礼節や作法、茶葉の特性や道具の役割、そして芸術にも至る煎茶独特のしつらいについて説明することができる。また、喫茶史を煎茶の視座から見直し、煎茶道の形成過程に近世文人の果たした役割の大きさを知り、どのような展開を経て今日に至ったのかを説明することができる。そして、伝統文化である煎茶を、高度なコミュニケーションツールとして、今後の自分の生活や活動の中に生かすことができる。
伝統文化演習VII	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP2S68	後期					○	△	◎	和装	日本文化を支える精神を学ぶための演習。日本人の伝統的な身体感覚を取り戻すことは大変重要です。日本文化を支えてきた伝統の上にはじめて新しい創造が可能になるからです。芸術大学で学ぶみなさんにとって大事な感覚です。演習ですから、時間厳守、遅刻厳禁。途中放棄をしないという覚悟で臨んでください。	着物を自分で着ることができるようになる。「型」を学べば「型破り」の表現ができることを理解する。
伝統文化演習VIII	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S69	前期・後期					○	△	◎	水墨画	水墨絵画は東方造形芸術を代表する様式のひとつです。この授業では世界文化遺産の敦煌、故宫博物院をはじめ世界各地の博物館の名品および現代名家の中から精選された作品を分析しながら基本技法を学びます。“素材と表現”では、点や線、滲み、濃淡を用いて、墨による表現の可能性を探究していきます。	水墨画に関する基礎技法の把握する。「墨の文化」の形と型を理解することができる。
伝統文化演習IX（和太鼓）	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S70	前期・後期					○	△	◎	和太鼓の実技を通して自身の殻を破り、人間力を高める	日本の伝統的な楽器「和太鼓」を通して音とパフォーマンスの関係性を学び、心と身体の活かし方を学ぶ。基礎技術を習得することはもちろんのこと、主体性や協調性を養うと共に、各々に潜んでいる響き合う心、感動する心を目覚めさせ、命あるものとしてのエネルギーを大いに発揮し、1つの課題曲を習得する。最終日にグループで課題曲の発表を行う。	自分の殻を破り、自己への挑戦をする。 与えられている心と身体を活かし、協調性を持ちながら、自己表現が出来るようになる。 コミュニケーション能力を身に付けることができる。 和太鼓の歴史を知ると共に基本的な打法を身に付けることができる。
伝統文化演習X	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S067	前期					○	△	◎	茶道	茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。しかし、茶の湯の本質は亭主と客のまじわりがとても大切で、点前作法の要素はそれを実現させるものであり、お茶のみならず日本の生活文化をもって研究し、茶の湯との密接であることを学ぶ授業である。	1.日本の四季折々の季節を掛軸、茶花などから敏感に感じ取れる。 2. 御茶・菓子の頂き方、挨拶など客として振る舞いができる。 3. 点前を通して、亭主としてのもてなしの心が理解できる。
伝統文化演習XI	選択	1・2・3・4	演習	1	80EXP1S067	後期					○	△	◎	茶道	茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。しかし、茶の湯の本質は亭主と客のまじわりがとても大切で、点前作法の要素はそれを実現させるものであり、お茶のみならず日本の生活文化をもって研究し、茶の湯との密接であることを学ぶ授業である。	1.日本の四季折々の季節を掛軸、茶花などから敏感に感じ取れる。 2. 御茶・菓子の頂き方、挨拶など客として振る舞いができる。 3. 点前を通して、亭主としてのもてなしの心が理解できる。
伝統文化特講	選択	1・2・3・4	講義	1	80AXN1L71	前期			○	○				伝統文化に触れる旅	日本の伝統工芸や文化の現物資料に触れることをつうじて、長い年月をかけて継承しながら創り出されてきた他に類を見ない伝統文化の本質に迫ることに意味がある。教科書的な資料から離れ現物を間近に触れることによる学びを促進する。	現物資料に実際に触れることを通して、日本文化の「かた」を理解しデザインに活かすことができること
京都学特講	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L72	後期	◎	○	○					京都で育まれた日本の伝統と文化の真髄	よいものを作り継承していくプロセスの中には、よい使い手との間で妥協を許さない切磋琢磨が存在する。作り手、使い手双方の姿勢が、今日の京都の素晴らしい伝統工芸、ひいては京都の文化の礎を築いてきたと言っても過言ではない。古くから天皇や茶道、華道、能、狂言などの家元、寺院の本山などに用いられ、京都の伝統工芸（産業）は、こうした厳しい使い手の要求に答える過程を通じて、技術を磨いてきました。本講義においては、京都の町衆によって長い年月をかけて継承しながら創り出されてきた他に類を見ない京都の伝統・文化の本質を捉えていきたいと思います。 本講義においては、実際に。京都の伝統文化の物づくりや使い手の現場を訪れ、そこでの講義を通じて、京都の伝統文化や伝統工芸の本質を捉えていきたいと考えております。	京都の伝統を支える美意識を学ぶことを通じて、京都の伝統・文化、京都の街の姿勢を学ぶ、とともに、その姿勢を自らのものづくりに活かすことができるようになる。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
社会科学入門	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L73	前期	○	○						社会の「なぜ」から未来を構想する	社会にはたくさん「わからない」が存在します。なぜ貧富の差が生じるのか。民主主義って何だろう。その「なぜ」には絶対的な正しい答えがないように感じます（そのような答えがあるとすれば社会はもっと良くなっている気もします）。とすれば、私たちはその社会をどのように捉えればいいのでしょうか？情報の即時性・拡散性が高まった現代社会は、社会そのものの変化の速度も加速的に高まっています。その意味においては10年後の社会を正確に予測することは不可能に近いとも言えます（なので不安を感じるんですね）。社会の「なぜ」に対して、情報を集め、複数の視座を組み合わせ分析し、そして、未来を構想していく、そのことが社会科学の大きな役割です。社会を人や集団で捉えるのが社会学。社会をお金の視点から捉えると経済学。社会をルールやシステムの視点で捉えると法学となります。そのような複数の視点から自らの分析視座を獲得することが本講座の目的です。	社会の「なぜ」に対して、情報を集め、複数の視座を組み合わせ分析し、そして、未来を構想していくことができるようになる
情報リテラシー論	選必	1・2・3・4	講義	1	80KNW2L74	前期・後期	○	○						情報社会を生きる	毎日、どれくらいの時間を携帯電話やPCとともに過ごしているでしょうか？スマートフォンは今や生活に欠かせない通信手段となり、私たちの生活の中に浸透しています。インターネットの普及により、大量の情報が瞬時に入手できる環境が整備され、産業社会のみならず家庭や個人のライフスタイルにも大きな変化をもたらしています。他方で、これまで情報をうけることが中心であった層が積極的に情報発信をすることが可能になってきました。その情報との関わり方の変容は私たちの生活上のリスクの変容をもたらしています。本講義においては、そのような情報を取り扱う上での現代的課題を分析し、より効果的に情報と付き合うリテラシーを獲得することを目的としています。具体的には、1）与えられた問題や課題に対処するために必要な情報を獲得する2）必要な情報を獲得し、その情報を評価することができる3）情報を編集し、直面する問題や課題に対処するために効果的に情報を活用することができることを目的としています。	1）与えられた問題や課題に対処するために必要な情報を獲得する 2）必要な情報を獲得し、その情報を評価することができる 3）情報を編集し、直面する問題や課題に対処するために効果的に情報を活用することができる
知覚心理学	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L75	前期	◎	◎						「見る」と「描く」にまつわる「？」をとりあげながら、人間の感覚・知覚・認知のしくみについて学ぶ。	ヒトはなぜ絵を描くのか？ 写実的に描くのはなぜむずかしいのか？ その背景には、人間ならではの認知のしくみが関わっています。この授業では、「見る」と「描く」に関するさまざまな「？」をとりあげながら、進化や発達を視点を交えて考察することで、わたしたちがモノを認識するしくみや描く心の基盤について理解していきます。この授業で「？」に向きあうことで、それぞれが、より創造的な表現活動にとりくむきっかけになればと考えています。	「見る」と「描く」をつなぐ認知のしくみについて理解して、デッサン時の見方のコツをつかめるようになる。人間の認知のしくみを理解したうえで、各自の表現に向きあえるようになる。
芸術数学入門	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK2L76	後期	○	○			○	○	○	わたしたちの身近なライフスタイルとアート、自然現象にかかわるさまざまな事象、最新情報を例をあげながら「数学」への基本的な考え方について議論してゆきます。	基本的な初歩的な数学の不思議な話をから始めます。基本的な数学的センスを身につけ、さまざまな計算ができることをめざします。できるだけ身近な基本的な数学的現象とそこへの発想と手法を用いて、自然現象のなんらかの性質や規則性あるいは不規則性からいくつかの数学的な原理をさらにはその芸術性を見いだします。そのような数学的な原理からの手法は、幅広い分野で応用されています。医学(疫学)、看護学、薬学、経済学、社会学、心理学、言語学など、自然科学・社会科学・人文科学のほぼ全分野にわたるわかりやすい分野を例にして話を進めます。また、数学は哲学の一分科である科学哲学においても重要なひとつのトピックスであることも理論とそれを発展させた数学者の格闘を交えて、人類の芸術的至宝と呼ばれるオイラーの公式に近づきます。	最強の学問と言われる数学的センスを身につけ今後の皆さんの作品制作に供します。
自然科学入門	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK1L77	前期・後期		○					○	わたしたちの身近なライフスタイルとアートにかかわるさまざまな事象、最新情報を例をあげながら、そこに潜む「自然科学と論理」という考え方、さらには芸術性について議論してゆきます。	基本的な初歩的な自然科学の不思議な話をから始めます。基本的な自然科学のセンスを身につけ、さまざまな自然科学的思考ができることをめざします。できるだけ身近な基本的な自然科学の現象とそこへの発想と手法を用いて、自然現象のなんらかの性質や規則性あるいは不規則性からいくつかの重要な原理をさらにはその芸術性を見いだします。そのような自然科学の原理からの手法は、幅広い分野で応用されています。医学(疫学)、看護学、薬学、経済学、社会学、心理学、言語学など、自然科学・社会科学・人文科学のほぼ全分野にわたるわかりやすい分野を例にして話を進めます。また、自然科学は哲学の一分科である科学哲学においても重要なひとつのトピックスであることも理論とそれを発展させた自然科学分野の格闘を交えて、人類の芸術的至宝と呼ばれるさまざまな発見に近づきます。	最強の学問と言われる数学的センスを身につけ今後の皆さんの作品制作に供します。
人文学入門	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L78	前期	◎	○	○					いわゆる「教養」の中核をなす学問分野である人文学は、常に現在の問題と向き合っている。人文学の範囲と方法論を具体的に学んでいく。	人文学（人文科学）は文学、哲学、歴史、宗教、心理、芸術など、多くの学問領域を擁しているが、何よりもそれは「過去の人間の書き残した言葉を大切に読み解く」という営みを中心にする。この授業では、複数の講師が、それぞれの分野で得意とする「古典」を読み解き、講義することによって、人文学の核心を伝えようとする。	人文学の扱う範囲と方法について概観をもつことができること。 古典を読む重要性について自覚できるようになること。
リサーチ&リテラシー入門	選必	1・2・3・4	講義	1	80EXP2L79	後期	○		◎				◎	大学での学びに必要な情報収集とレポートの書き方	大学で学ぶに際しては、正確かつ効率的な情報収集の方法、そしてそれをもとにみずから考え、その過程と結論を文章化するレポートの書き方を修得することが欠かせない。この授業ではそのような学術的な営為の基本を具体的なかつ実践的に教授する。	正確な情報収集の方法を知り、それをもとにレポートが書けるようになること。
デザイン入門	選択	1・2・3・4	講義	1	80THK2L80	前期	△	◎		○				「デザイン」を考察する	「デザイン」とは何なのか……。モノからコト、そして環境へと、20世紀初頭に生まれた「デザイン」のあり方は、その時代や社会と深く関わりながら、歴史の中で多彩な変化を遂げてきました。本授業では、これからのデザインを考える上で必要とされる歴史や文化を振り返りながらその知見を広げ、受講生各自の制作、研究が深化していくことを目的としています。	デザインの多様性について理解を深め、現代社会における物事の問題把握や解決方法を模索し、言語化、提案ができるようになる。
京都の美術入門	選択	1・2・3・4	講義	1	80KNW1L81	後期	◎	○						これだけは知っておきたい京都の美術	京都で美術、工芸、デザイン、建築を学ぶ皆さんにとって、まず知るべきことは京都の美術工芸の豊かな作品群です。平安時代以来1200年間、都であり続けた京都は正に文化の発信地でした。京都発の作品や作家を知ること、日本の美術工芸の歴史をひもとくことなのです。授業では、平安時代から江戸時代までの京都発の美術工芸作品、しかも、できる限り京都府内に現存する代表的な作品を中心に考察していきます。もちろん、京都の美術工芸史だけ知れば事足りるわけではありません。同時代の日本や世界の美術工芸なども視野に入れて考察していきましょう。皆さんには出来るだけ本物を観に出かけ、観る目を養うことが期待されています。何を観たら良いのかも、授業でお知らせします。観て、感じるによって、自身の作品制作のヒントをつかみ取って下さい。	平安時代から江戸時代までの代表的な京都の美術作品における斬新な点や後世の作品への影響力について説明できる。
日本の文化と言語I	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP1L82	前期	◎						◎	大学生活に必要な日本語（基礎編）	1年生以上の留学生を対象に、大学生活に役立つ日本語能力を習得するための授業を行います。前期は日本語のライティング表現を中心に学び、大学の講義で求められる基礎的な日本語技能を様々な実践を通して習得することを目的とします。また、毎回、漢字と語彙の小テストを行います。	大学の講義などにおける書くことを中心とした活動ができるようになる。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
日本の文化と言語Ⅱ	選択	1・2・3・4	講義	2	80EXP2L83	後期	◎						◎	大学生活に必要な日本語（応用編）	日本の文化と言語Ⅰに引き続き、1年生以上の留学生を対象に、大学生活に役立つ日本語能力を習得するための授業を行います。後期は日本語の口頭表現を中心に学び、大学の講義で求められる応用的な日本語技能を様々な実践を通して習得することを目的とします。また、毎回漢字と語彙の小テストを行います。	大学の講義などにおける話すことを中心とした活動ができるようになる。
日本の文化と言語Ⅲ	選択	2・3・4	講義	2	80EXP2L84	前期	◎						◎	他者に伝えるためのコミュニケーション（基礎編）	様々な事象や心情、思考などを言語化し、他者に的確に伝える力を培う。毎回、授業内に出される課題について、ペアやグループで説明しあったり、意見を交わしたりする。その際、適切な言語表現や機能を確認し、より高度で自然な日本語表現が使えるようになることを目指す。この授業では、スピーキングを主とする。また、日本での就職の採用テストとして使用されることの多い「SPI2(言語問題)」の演習も行い、小テストを実施する。	様々な事象や心情、思考が正確に言語化でき、他者に的確に伝えられるようになること。また、正確に理解できるようになること。日本語で話すことに臆することなく、自信を持って話せるようになること。
日本の文化と言語Ⅳ	選択	2・3・4	講義	2	80EXP2L85	後期	◎						◎	他者に伝えるためのコミュニケーション（就職活動編）	自己PR文の書き方や面接での話し方など、日本での就職活動に必要な知識やスキルを実践を通して学ぶ。自己PR文やスピーチは学生同士でチェックし、評価する。そうやって、何度も考察し他者に説明することで、自分の思考を明確にし、より高度で自然な日本語表現が使えるようになることを目指したい。また、日本での就職の採用テストとして使用されることの多い「SPI2(言語問題)」の演習も行い、小テストを実施する（「SPI2（言語問題）」の演習は、日本語中級Ⅰの続きとする）。	就職活動に必要な知識やスキルがわかるようになること。自分の思考を明確にし、文章化できるようになること。また、他者に的確に伝えられ、他者の話が正確に理解できるようになること。日本語で話すことに臆することなく、自信を持って話せるようになること。
日本語論述基礎Ⅰ	選択	2・3・4	講義	1	80EXP2L86	前期・後期	○	◎					◎	レポート、卒業論文を書くための日本語表現を学ぶ（基礎）	レポートや卒業論文を書く時には、メールやSNSの文章とは違い、客観的で相手を説得できる論述文のスタイルが求められる。論述文のスタイルは分野によって多少の違いはあるが、論理的な文の組み立てという点では普遍的な能力である。この授業では800字程度の短文を書くことによって修練を積む。	800字程度の、論理的な論述文が書けるようになること。
日本語論述基礎Ⅱ	選択	2・3・4	講義	1	80EXP2L87	前期・後期	○	◎					◎	レポート、卒業論文を書くための日本語表現を学ぶ（発展）	レポートや卒業論文を書く時には、メールやSNSの文章とは違い、客観的で相手を説得できる論述文のスタイルが求められる。論述文のスタイルは分野によって多少の違いはあるが、論理的な文の組み立てという点では普遍的な能力である。この授業では段落構成に注意し、破綻なく1600字程度の文章を書けることをめざす。	1600字程度の、段落構成の整った、論理的な論述文が書けるようになること。
日本語表現基礎Ⅰ	選択	2・3・4	講義	1	80EXP2L88	前期・後期	○					◎	◎	作品を語る日本語表現を学ぶ（基礎）	作品のプレゼンやポートフォリオの作成の際には、他者を巻きこむことのできる説得的な言語表現が必要になる。それはまたあらゆる分野で何かを「批評」する際にも必要とされるだろう。この授業では柔軟な発想力と表現力を備えた日本語の書き言葉を短文（800字程度）を書くことによって修練する。	800字程度で、自他の作品が語れるようになること。
日本語表現基礎Ⅱ	選択	2・3・4	講義	1	80EXP2L89	前期・後期	○					◎	◎	作品を語る日本語表現を学ぶ（発展）	作品のプレゼンやポートフォリオの作成の際には、他者を巻きこむことのできる説得的な言語表現が必要になる。それはまたあらゆる分野で何かを「批評」する際にも必要とされるだろう。この授業では柔軟な発想力と表現力を備えた日本語の書き言葉をさまざまな形式と分量にあわせて書く修練をする。	1600字程度で、説得的な表現で自他の作品が語れるようになること。
国語基礎Ⅰ	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L90	前期・後期	◎							大学生に必要な国語の知識（基礎編）	大学で学習する際の基礎、またキャリア活動の基礎となる高校までの国語の知識を復習する。基礎編においては主として漢字の語彙、四字熟語、長文読解を修練する。	最終回の試験において、80点以上の得点がとれること。
国語基礎Ⅱ	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L91	前期・後期	◎							大学生に必要な国語の知識（応用編）	大学で学習する際の基礎、またキャリア活動の基礎となる高校までの国語の知識を復習する。応用編においては主として文法、敬語、古典の基礎知識を学ぶ。	最終回の試験において、80点以上の得点がとれること。
民俗学	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L92	前期・後期	◎	◎					○	祭りをどう見るか	祭りをよく観察すると、そこに、いくつかの基本的な〈宗教的身振り〉と呼べるものがあることに気づく。柳田国男は、祭りには、〈食べる〉ことが不可欠だといったが、〈食べる〉もその一つである。すなわち、食べ物（ご神饌）を神に供え、それを（お下がりとして）また皆で食べる。神人共食といわれるが、そのようにして、神と交通し交感するのである。この講義では、そのような祭りに内在する〈宗教的身振り〉をいくつか抽出し、その先に見える宇宙像や宗教的世界について哲学的に考察する。祭りを遡る思索の旅である。	祭り（あるいは宗教的儀礼）について、一般的な認識を持てる。
文化史	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L93	夏期集中	◎	◎					○	アジアの文化史からみた日本文化の多様性	日本の文化をふり返れば、朝鮮半島や中国大陆の文化を積極的に吸収した飛鳥時代や奈良時代の文化から始まります。そうした日本古代の文化を学ぶとともに、その源流となった中国を中心とした東アジアの文化や、アジアに広く流布した仏教の源流であるインド・ガンダーラの仏像の文化について学びます。アジアという視点から日本の文化を考察します。	アジアの諸地域の文化を幅広く学ぶことにより、「文化」というものが一国の文化のみでは成立しえないことを自覚し、アジア各地の文化や日本文化の多様性についてしっかり理解できるようになることが目標です。
プロジェクト探究Ⅰ	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L94	前期	◎	○		△			○	社会実装についての知識と考えを学ぶ	芸術教育の社会実装に着目し、社会に向けて新たな価値の創出や、自らが社会の課題を発見し、どのように芸術の力を用いてその解決に役立てることができるのかを学ぶ。そして、その方法を考察する。	社会が抱えている課題に対して芸術の力を用いて、より良い社会に導いていく新たな提案ができるようになる。
プロジェクト探究Ⅱ	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L94	後期	◎	○		△			○	社会実装についての知識と考えを学ぶ	芸術教育の社会実装に着目し、社会に向けて新たな価値の創出や、自らが社会の課題を発見し、どのように芸術の力を用いてその解決に役立てることができるのかを学ぶ。そして、その方法を考察する。	社会が抱えている課題に対して芸術の力を用いて、より良い社会に導いていく新たな提案ができるようになる。
プロジェクト探究Ⅲ	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L94	前期	◎	○		△			○	社会実装についての知識と考えを学ぶ	芸術教育の社会実装に着目し、社会に向けて新たな価値の創出や、自らが社会の課題を発見し、どのように芸術の力を用いてその解決に役立てることができるのかを学ぶ。そして、その方法を考察する。	社会が抱えている課題に対して芸術の力を用いて、より良い社会に導いていく新たな提案ができるようになる。
プロジェクト探究Ⅳ	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L94	後期	◎	○		△			○	社会実装についての知識と考えを学ぶ	芸術教育の社会実装に着目し、社会に向けて新たな価値の創出や、自らが社会の課題を発見し、どのように芸術の力を用いてその解決に役立てることができるのかを学ぶ。そして、その方法を考察する。	社会が抱えている課題に対して芸術の力を用いて、より良い社会に導いていく新たな提案ができるようになる。
プロジェクト探究Ⅴ	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L94	前期	◎	○		△			○	社会実装についての知識と考えを学ぶ	芸術教育の社会実装に着目し、社会に向けて新たな価値の創出や、自らが社会の課題を発見し、どのように芸術の力を用いてその解決に役立てることができるのかを学ぶ。そして、その方法を考察する。	社会が抱えている課題に対して芸術の力を用いて、より良い社会に導いていく新たな提案ができるようになる。
プロジェクト探究Ⅵ（LS対象科目）	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L94	後期	◎	○		△			○	プロジェクトマネジメント/コーチング	ワークショップベースの学生サポーターのためのマネジメントスキルアップ、ファシリテーション・コーチングを考える。学生やクラスのファシリテーターによる問題提起に対し、学びの向上、解決力の向上などをディスカッションによって探り共有することで、実践的なクラス運営に活かすマネジメントおよびコーチングを学習していく。 プロジェクト運営のワークフローの質をディスカッションを繰り返す中で向上させる。	社会が抱えている課題に対して芸術の力を用いて、より良い社会に導いていく新たな提案ができるようになる。
プロジェクト探究Ⅶ（LS対象科目）	選択	2・3・4	講義	2	80THK2L100	前期	△	◎	○					プロジェクトマネジメント/コーチング	ワークショップベースの学生サポーターのためのマネジメントスキルアップ、ファシリテーション・コーチングを考える。学生やクラスのファシリテーターによる問題提起に対し、学びの向上、解決力の向上などをディスカッションによって探り共有することで、実践的なクラス運営に活かすマネジメントおよびコーチングを学習していく。 プロジェクト運営のワークフローの質をディスカッションを繰り返す中で向上させる。	プロジェクト内で起こる様々な問題に対して共同で課題を立案することが出来るようになる。 立案した課題を着実に実践に移し、内省するの中で得た知識を共有できる。 人間関係の構築の為のコミュニケーション力の獲得、実践的な行動力による組織運営方法を身につける。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
プロジェクト探究VIII（LS対象科目）	選択	2・3・4	講義	2	80CEP2L101	夏期集中	△		○			◎		グループマネージメント	ねぶた制作実現に向け、デザインのブラッシュアップから図面・模型制作までを行う。 ねぶた制作期間の運営を理解し、自身に合うワークフローを構築する。実践に向けグループ内で求められる制作期間のフォームを造り出しプロジェクト全体でも共有していく。	ねぶた制作実現に向けた組織的運営のサポート力を獲得する。 ねぶたの模型・図面の制作方法、ねぶた制作工程の把握し、得た情報をクラス内で共有することが出来る。 グループワークでの造形物等の制作に必要な安全管理が理解できる。
プロジェクト演習I～VIII ＊ツリー外に含む	選択	1・2・3・4	演習	2	80KNW2L94					○	◎	○	○	「働く芸大生」 - 社会で学ぶアートの可能性	社会実装を推進する本学においては、リアルワークプロジェクト、ウルトラプロジェクトなどたくさんのプロジェクトが進行している。実際のプロジェクト進行上の課題を共有し解決を模索する中で、アートが社会にどのような影響を与えるかを学ぶとともに、メンバーとの協働を通じて社会人基礎力を向上させる。	クライアントのニーズをしっかりと把握し、アウトプットを提供することを通じて、アートが社会に与える地映を理解するとともに、プロジェクトの組み立て（進行の仕方）を理解し自ら動けるようになる。
デザイン論I	選択	2・3・4	講義	2	80THK2L110	後期	○	◎				◎	◎	生活文化としてのデザイン	デザインを通して古代から今日までの私たちの社会と生活について学ぶ。デザインは物づくりから人生設計、社会問題解決に至るまで広く私たちの毎日と関わっている。テキストと映像資料を通して学び、デザインを意識して人類のこれからを考える。	デザインを知識として捉えるのではなく、社会と生活の問題として考え、デザインについて自分の言葉で語られるようになること。
色彩論I	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L111	夏期集中	○	◎						色彩を、今、ここで発生する出来事として捉える（その1）	世界は色彩に満ちていて私たちは色に包まれて生きているように感じられます。しかし、その色はどこにあるのでしょうか。対象表面の物理的性質や化学的組成に、対象が存在する空間の光学的環境に、光を検知する眼の生理的特質に、生理的反応を知覚し感じる心理的側面に...私たちは色彩の在処をさまざまな場所に尋ねる必要があるでしょう。加えて、我々の歴史的文化的背景への考察も欠かせません。その上で、色彩を実際に利用するにあたっての配色理論や色彩構成論があります。このように色彩には広く多面的なアプローチがあり、だからこそ謎や魅力が尽きないのだと言えます。このような色彩の世界の広範さを踏まえ、美術に関わる色彩の見方を原初的なところから考えていきたいと思います。	自己と世界の出会いの中で、色彩をその都度（その場所、その時間でいつも新しく）発生する現象であると捉え、感じられるようになること。色彩に関する基礎知識を習得すると同時に色彩を考察するアプローチの多面性を理解し、そこから各自の研究の糸口を発見すること。
色彩論II	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L112	夏期集中	○	◎						色彩を、今、ここで発生する出来事として捉える（その2）	世界は色彩に満ちていて私たちは色に包まれて生きているように感じられます。しかし、その色はどこにあるのでしょうか。対象表面の物理的性質や化学的組成に、対象が存在する空間の光学的環境に、光を検知する眼の生理的特質に、生理的反応を知覚し感じる心理的側面に...私たちは色彩の在処をさまざまな場所に尋ねる必要があるでしょう。加えて、我々の歴史的文化的背景への考察も欠かせません。その上で、色彩を実際に利用するにあたっての配色理論や色彩構成論があります。このように色彩には広く多面的なアプローチがあり、だからこそ謎や魅力が尽きないのだと言えます。このような色彩の世界の広範さを踏まえ、美術に関わる色彩の見方を原初的なところから考えていきたいと思います。	自己と世界の出会いの中で、色彩をその都度（その場所、その時間でいつも新しく）発生する現象であると捉え、感じられるようになること。色彩に関する基礎知識を習得すると同時に色彩を考察するアプローチの多面性を理解し、そこから各自の研究の糸口を発見すること。
表象文化論I	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L113	前期・後期	○	◎				◎	◎	視覚文化について考察する理論的視座を養う（その1）	この授業の目的は、映画やアニメーションといったさまざまな視覚文化に対して、表象文化論やメディア論などの観点から考察する視点を養うことである。各視覚メディアはこれまで、それぞれの特性をふまえた多様な表現方法を用いて、数多くの作品を生み出してきた。この授業では、具体的な実例をとおしてさまざまな理論について解説し、各視覚メディアの特性について検討していく。この授業では主として写真・映画を題材に視覚文化論を展開する。	・視覚文化をめぐるさまざまな考え方を理解する・視覚文化にかんする理論を応用し、文化事象について思考することができるようになる ・視覚メディアの特性を学ぶことで、視覚文化について多角的に考察できるようになる。 ・上記の2点について、思考・考察の結果を言語によって明晰に表現できる。
表象文化論II	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L114	前期・後期	○	◎				◎	◎	視覚文化について考察する理論的視座を養う（その2）	この授業の目的は、映画やアニメーションといったさまざまな視覚文化に対して、表象文化論やメディア論などの観点から考察する視点を養うことである。各視覚メディアはこれまで、それぞれの特性をふまえた多様な表現方法を用いて、数多くの作品を生み出してきた。この授業では、具体的な実例をとおしてさまざまな理論について解説し、各視覚メディアの特性について検討していく。この授業では主としてマンガ・アニメーションを題材に視覚文化論を展開する。	・視覚文化をめぐるさまざまな考え方を理解する・視覚文化にかんする理論を応用し、文化事象について思考することができるようになる ・視覚メディアの特性を学ぶことで、視覚文化について多角的に考察できるようになる。 ・上記の2点について、思考・考察の結果を言語によって明晰に表現できる。
哲学I	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L115	後期		◎					◎	教養としての哲学（その1）	古今東西の哲学の古典的な書物を紹介していきます。哲学的な思考は何を考える上でもベースとなるものです。哲学的思考に支えられていない言説は、ややもすれば、たんなる専門用語（ジャーゴン）の羅列におわってしまいます。また、あたりまえりようにしてやりすごされていく日常を疑い、一元的な価値にしばられることなく、多方向への思考の可能性を問い、日常をより快活かつ柔軟にしていくためにも、哲学的思考は「あったほうがいい」ものだと思います。つまり、「哲学者は霞を食べている」「哲学は机上の空論」などといわれたりしますが、哲学とは、ここでは、使われる言葉に花を添え、送られる生活に色を付ける、いわば「潤滑油」や「芳香剤」としての哲学です。「教養としての哲学」の意味もそこにあります。まずは、古今東西の古典的な書物を読んでみましょう。この授業では、「哲学とは何か」という概論からはじめ、プラトン、アウグスティヌス、デカルト、ニーチェといった西洋哲学の古典を扱います。	テキストを正確に読み、理解したことを適切な語彙と表現をもって論理的な文章で表現できること。
哲学II	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L116	後期		◎					◎	教養としての哲学（その2）	古今東西の哲学の古典的な書物を紹介していきます。哲学的な思考は何を考える上でもベースとなるものです。哲学的思考に支えられていない言説は、ややもすれば、たんなる専門用語（ジャーゴン）の羅列におわってしまいます。また、あたりまえりようにしてやりすごされていく日常を疑い、一元的な価値にしばられることなく、多方向への思考の可能性を問い、日常をより快活かつ柔軟にしていくためにも、哲学的思考は「あったほうがいい」ものだと思います。つまり、「哲学者は霞を食べている」「哲学は机上の空論」などといわれたりしますが、哲学とは、ここでは、使われる言葉に花を添え、送られる生活に色を付ける、いわば「潤滑油」や「芳香剤」としての哲学です。「教養としての哲学」の意味もそこにあります。まずは、古今東西の古典的な書物を読んでみましょう。この授業では、仏典、『老子』『論語』『無門門』など、仏教や東アジアの古典を扱います。	テキストを正確に読み、理解したことを適切な語彙と表現をもって論理的な文章で表現できること。
言語文化論 I	選択	2・3・4	講義	1	80CRE2L117	前期	○				◎	◎		日本の近現代詩を読む（その1）	文学の中でも「詩」は特別に言語とそのものと切り離すことができない性格を持っており、またほかの芸術と密接にかかわるジャンルである。西洋の文学形式を輸入することから開始された日本の近代詩は、困難な戦いと絶えざる革新の中から珠玉の作品を生み出し、今日まで至っている。この授業では、明治期から昭和初期までの代表的詩人の作品を抜粋して読んでみたい。	授業の内容を自分の関心にひきつけて主体的に理解し、自分なりのテーマが発想・構想できるようにする。
言語文化論II	選択	2・3・4	講義	1	80CRE2L118	前期	○				◎	◎		日本の近現代詩を読む（その2）	文学の中でも「詩」は特別に言語とそのものと切り離すことができない性格を持っており、またほかの芸術と密接にかかわるジャンルである。西洋の文学形式を輸入することから開始された日本の近代詩は、困難な戦いと絶えざる革新の中から珠玉の作品を生み出し、今日まで至っている。この授業では、昭和初期から戦中、そして戦後詩の潮流を形成した作品までを扱う。	授業の内容を自分の関心にひきつけて主体的に理解し、自分なりのテーマが発想・構想できるようにする。
経済学I	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L119	前期・後期	○	○		○				実社会で役に立つ経済学の視点	みなさんが生きていく社会では、様々な経済活動が行なわれており、その中で仕事・活動をしていくために、背景となる経済学の原理・原則を理解しておく必要があります。このコースは、経済学の抽象的な理論について解説をする概論ではなく、私たちが今、生きている「21世紀の日本社会」を経済学の視点から理解し、使える知識を身につけるのが目的です。	経済学の基礎用語を理解し、自然に使えるようになること。身近な社会現象を経済学的視点でとらえられるようになること。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
経済学Ⅱ	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L120	前期・後期	○	○		○				実社会で役に立つ経済学の視点（上級）	みなさんが生きていく社会では、様々な経済活動が行なわれており、その中で仕事・活動をしていくために、背景となる経済学の原理・原則を理解しておく必要があります。私たちが今、生きている「21世紀の日本社会」を経済学の視点から理解し、さらに、深くしゆいすることで使える知識を身につけるのが目的です。	みなさんが生きていく社会では、様々な経済活動が行なわれており、その中で仕事・活動をしていくために、背景となる経済学の原理・原則を理解しておく必要があります。このコースは、経済学の抽象的な理論について解説をする概論ではなく、私たちが今、生きている「21世紀の日本社会」を経済学の視点から理解し、使える知識を身につけるのが目的です。
現代社会論Ⅱ	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L121	前期	○	◎						地球史・人類史における「現代」の意味（その1）	この講座は、私たち人類と地球の未来をデザインするためのビジョン構築を目的とする。人間は、いまや地球に生きる一生物という域を超えて、地球環境全体に大きな影響力をもつ存在となった。この100年余りで人口は17億から70億に増え、この惑星の大気や炭素循環すら大きく変えつつある。しかし同時に人間は、地球という巨象の背中に乗るノミのように小さな存在でありながら、その巨象の体温や体調の変化を科学のセンサーで感じとり、インターネットという地球大の神経系でつながりあって、この星の生物多様性という宝を未来へとつないでゆく道を探索しつつもある。地球はこうした「進化の異物」をつねに生みだし、それと共生・共進化することでより高次の秩序を形成してきた。今回も、人間という未熟な知性を孕んだ地球環境をどう調和的に共進化させようか？という課題を引き受けていくしか道はない。そして、それが現代において「人間とは何か？」という問いに答えるための、最も真摯なアプローチと考える。また本講義では、数億年のタイムスパンで地球史や人類史も振り返りつつ、そうした時間のランドスケープのなかで「現代」の意味を探る。現代しか知らない者は、現代を超える想像力を持つことはできない。Radical（革新的）という言葉がもともと「根源」を意味するように、あるいはOriginality（独創性）が本来Origin（源泉）に触れることであるように、この講義では未来への想像力をブロードバンド化するための本源的な視点を、大きな歴史と最先端の科学的知見に基づいて提示する。	現代という時代をマクロな視野で読み解き、未来を構想することができる。
現代社会論Ⅱ	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L122	後期	○	◎						地球史・人類史における「現代」の意味（その2）	この講座は、私たち人類と地球の未来をデザインするためのビジョン構築を目的とする。人間は、いまや地球に生きる一生物という域を超えて、地球環境全体に大きな影響力をもつ存在となった。この100年余りで人口は17億から70億に増え、この惑星の大気や炭素循環すら大きく変えつつある。しかし同時に人間は、地球という巨象の背中に乗るノミのように小さな存在でありながら、その巨象の体温や体調の変化を科学のセンサーで感じとり、インターネットという地球大の神経系でつながりあって、この星の生物多様性という宝を未来へとつないでゆく道を探索しつつもある。地球はこうした「進化の異物」をつねに生みだし、それと共生・共進化することでより高次の秩序を形成してきた。今回も、人間という未熟な知性を孕んだ地球環境をどう調和的に共進化させようか？という課題を引き受けていくしか道はない。そして、それが現代において「人間とは何か？」という問いに答えるための、最も真摯なアプローチと考える。また本講義では、数億年のタイムスパンで地球史や人類史も振り返りつつ、そうした時間のランドスケープのなかで「現代」の意味を探る。現代しか知らない者は、現代を超える想像力を持つことはできない。Radical（革新的）という言葉がもともと「根源」を意味するように、あるいはOriginality（独創性）が本来Origin（源泉）に触れることであるように、この講義では未来への想像力をブロードバンド化するための本源的な視点を、大きな歴史と最先端の科学的知見に基づいて提示する。	現代という時代をマクロな視野で読み解き、未来を構想することができる。
情報学Ⅰ	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L123	後期	○	◎						情報を活用する創造力を鍛える（その1）	現代社会ではPCやスマートフォンなどが普及し、ほとんどの人が情報機器の取り扱いができるようになっています。しかし、無限多数にある情報から、必要な情報を的確に収集し、整理して活用するには創造的、高度な能力が求められます。「テレビ局」「通信社」という二つの代表的メディアの関係性を解きあかしながら、現場の日々仕事、その役割、そして今後のメディア在り方について、具体的なニュースや番組を基に伝え、目的に応じて適切に判断、評価、選択、発信できる能力、すなわち、情報を使いこなす能力を醸成します。	情報社会の特徴とリスクを把握し、目的に応じて物事を適切に判断、評価、選択、発信できる能力に加え、自己表現力を獲得すること。メディア（テレビ局、通信社）のコンテンツ（知財）の社会的な意義を学生が深く考えられるようにし、メディア現場を通して社会の流れを知ること、将来にさまざまな分野で生かせるような創造力や自己表現力を養う。
情報学Ⅱ	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L124	後期	○	◎						情報を活用する創造力を鍛える（その2）	現代社会ではPCやスマートフォンなどが普及し、ほとんどの人が情報機器の取り扱いができるようになっています。しかし、無限多数にある情報から、必要な情報を的確に収集し、整理して活用するには創造的、高度な能力が求められます。「テレビ局」「通信社」という二つの代表的メディアの関係性を解きあかしながら、現場の日々仕事、その役割、そして今後のメディア在り方について、具体的なニュースや番組を基に伝え、目的に応じて適切に判断、評価、選択、発信できる能力、すなわち、情報を使いこなす能力を醸成します。	情報社会の特徴とリスクを把握し、目的に応じて物事を適切に判断、評価、選択、発信できる能力に加え、自己表現力を獲得すること。メディア（テレビ局、通信社）のコンテンツ（知財）の社会的な意義を学生が深く考えられるようにし、メディア現場を通して社会の流れを知ること、将来にさまざまな分野で生かせるような創造力や自己表現力を養う。
農演習Ⅰ	選択	1・2・3・4	演習	2	80AXN1S125	前期・後期	○		◎					「農」の世界入門：大地に触れる・有機農法	多くの文化や暮らしの作法は、大地との交わりから始まっています。有機農法による腐葉土による土づくりから土を育て耕し、野菜の播種、定植から収穫までを行います。視覚や聴覚だけでなく、嗅覚や触覚、そして味覚など五感を総動員し、天地自然を相手にする世界は、必ずしも人間の期待するところには展開しませんが、農園で野菜の生長など持続的に観察する力で五感の領域を豊にすることを目的とします。	野菜の播種、定植等の育生から収穫まで有機農法による農作業の知識と方法を体得できる。野菜の生長を継続的に洞察する観察力が高まること
農演習Ⅱ	選択	2・3・4	演習	2	80AXN2S126	前期・後期	○		◎				○	「農」の世界入門：大地に触れる・加工と保存	土に触れることは、地球に触れることです。大地とのコミュニケーションです。人は大昔から、一粒の種から豊かな実りがもたらされることを知り、生命をつなぐ源が大地との交わりにあることに気づいていました。有機農法を基に野菜のみではなく、和綿、蓼藍、楮などの栽培と収穫した野菜の伝統的な保存、加工方法などを体験することで、視覚や聴覚だけでなく、嗅覚や触覚、そして味覚など五感を総動員し、農園での持続的な観察力と五感の領域を豊にする表現力の習得を目的とします。	有機農法による野菜の収穫から干す、漬けるなどの加工と保存についての知識と理解を深めることができる。和綿、蓼藍、楮などを栽培し、染色など表現素材を育生する方法を体得できる。
日本芸能史Ⅰ	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L127	前期	◎	○						受け継がれる伝統芸能と人間国宝の世界	伝統芸能の世界はどのように受け継がれてきたのか。重要無形文化財の保持者として認定された人間国宝に注目する。	自分の目と耳とで芸能を体験し、日本を身体で理解できる。
日本芸能史Ⅱ	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW2L128	後期	◎	○						能と狂言の世界	能と狂言が成立した中世の鎌倉、室町時代は、日本独自の文化の本質を完成させた時代である。能と狂言の世界を通して日本人とは、日本文化とは何かを学ぶ。	能と狂言という、難しいが不思議な世界に挑戦する。「わからなさ」を「おもしろがる」。その先に広がる何かを学び取ることができる。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
京都学I	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L129	夏期集中	○	○						「良い作り手、良い使い手」から捉えなおす京都の伝統	京都の伝統工芸（産業）に視点を当て、よいものを作り継承していくプロセスの中には、よい使い手との間で妥協を許さない切磋琢磨が存在する。作り手、使い手双方の姿勢が、今日の京都の素晴らしい伝統工芸、ひいては京都の文化の礎を築いてきたと言っても過言ではない。古くから天皇や茶道、華道、能、狂言などの家元、寺院の本山などに用いられ、こうした厳しい使い手の要求に答える過程を通じて、技術を磨いてきたのです。本講義においては、職人の手から手へ、長い年月をかけて継承しながら創り出されてきた他に類を見ない京都の伝統工芸を、作り手、そして、使い手の立場から京都の伝統技術を捉え直します。本講座は、京都の伝統・文化をより深く学び、継承していくために、伝統を守る使命感、そして、感性を頑なまでに後世に伝えようとしている職人である作り手、そして、それに相対し、時には厳しくも暖かく作り手を見守ってきた文化芸術に携わる使い手を中心に、京都の各界でご活躍されている先人にご登壇いただき、各々の視点から「京都」の魅力をフォーカスします。	京都の伝統を支える美意識を学ぶことを通じて、ものづくりに対する姿勢を学ぶ、とともに、その姿勢を自らのものづくりに活かすこと。
京都学II	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW2L130	後期	○	○						これだけは聞いてほしい京都のこと	学内最強の講師陣がオムニバス形式で展開する、京都を知るための講座。芸術のみやこ京都をさまざまな角度から学びます。みやこが創造してきた文化芸術のすごさを知ることが、あなた自身の思索・創作活動にとって必要かつ最重要課題です。京都で学ぶ意義を発見してください	京都には日本人あるいは日本文化が失ってしまった大事なものが保たれていることを知ること
伝統文化論	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L131	後期	○	○						伝統文化の真髄にふれる	日本文化は京都を軸に発展していったといっても過言ではない。京都近辺で生まれてきた文化を、その時代背景や生活文様とともに理解することでその当時の「人の生きた様相」を理解し伝統文化に対する理解を深める。とともに、その知恵を現代に生かせる知恵として捉える。	京都の伝統を支える美意識を学ぶことを通じて、その文化を学ぶ、とともに、その姿勢を現代に活かすこと。
知財特講	選択	1・2・3・4	講義	2	80KNW1L132	後期集中	○	○		○				アイデアと表現を促進する法律的思考	単なる知財の知識だけではなく、知的財産に関するものの考え方を総合的、網羅的、体系的に学ぶことを行う。そのことで、法を規制規範としてではなく、表現を促進するサポート機能として活用できる思考法を獲得する。	知的財産法・著作権の基礎用語を理解し、自然に使えるようになること。身近な社会現象を法的視点でとらえられるようになること。
経営学	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L133	後期	○	○		○				人と社会を動かす仕組みをまなぶ	企業が有するヒト・モノ・カネ・情報という経営資源をいかに効果的に配分/活用して企業を豊かにするかを考える学問を通じて、自らのアイデアに付加価値をつけることを学ぶ。	経営学の基礎用語を理解し、自然に使えるようになること。身近な社会現象を経営学的視点でとらえられるようになること。
地政学	選択	3・4	講義	1	80KNW3L134	後期集中	○	○						「正しいニュースの見方」を知り、世界情勢を学ぶ	地理的な環境が国家に与える政治的(主に国際政治)、軍事的、経済的な影響を、巨視的な視点で研究するものである。特定地域が抱える政治的、軍事的、社会的な緊張の高まりが、地理的な位置関係によって、その地域や関連地域の経済、世界経済全体の先行きを不透明にしたり、特定の商品の価格を変動させたりする、その可能性を学ぶことを通じて、社会を捉える視点を獲得する。	地政学の基礎用語を理解し、自然に使えるようになること。身近な社会現象を地政学的視点でとらえられるようになること。
美術解剖学	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L135	後期	◎	○						身体の仕組みと形態を学ぶ -骨学と筋学を中心に-	身体の構造を知り、性差や年齢差など身体の差異を学び、身体を視る確かな眼を養うとともに、身体表現の可能性を考察する。	■骨学・筋学を通して身体の構成と機構を知り、身体の内部構造を意識する観察眼を習得する。 ■身体の計測実習に取り組み、人体のプロポーションについて男女差や個体差を理解する。 ■美術解剖学の知識を基に身体美を探究する力を養う。
生命論I	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L136	前期	◎	◎			◎			「創造の秘密」に接近	世界には多様な生命や物質が満ち溢れ、それらが互いに呼应し、私達の想像の及ばない未知なる生命と情報のネットワークを形成しています。たとえばランとミツバチの知られざる世界。それらの生命と環境世界の（ダーウィン、ドゥルーズ、ユクスクルあるいはペイトソンの）精神やいろいろな生命の「知性」をいかにして感じとり、さらに考察して芸術や科学とくにアートにおいて実践できるでしょうか？そして生命と環境の生理・生態から有機的・無機的なデジタルな表象・表現に向かう私たちの創造とは？このような生命学から科学全般さらには現代思想あるいは最新情報をもとに総合芸術の理論と作品制作などの実践に繋がる「創造の秘密」に迫りたいと思います。	さまざまな造形芸術の生命や生活にかかわる問題について自覚し、自分の作品テーマに取りこむスキルを身につける。生命への鼓動を感じ取るセンスを身につけ、今後の作品制作に供することができる。
技術史・技術論I	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L137	前期	◎	◎			◎			技術的、美的な感性を追求	自然に向かう科学のすがたからさまざまな技術を標榜します。人がいかなる行動を起こしても自然に大きな影響をあたえます。その行動のあり方を科学ひいては技術と言ってもいいかもしれません。狩猟、採集から人類の文化は始まり、やがて科学となってゆき、そこで技術が誕生するのでしょうか。そこでは科学と技術だけが独立してあるわけではなく、人と自然の関係性を考察、検討してゆかねばならないとも考えられます。各講義で、最新情報からマルクスの生態学までジャンルを超える事項をあげて技術の本質を解説してゆきます。	技術的センスと技術へのアプローチを身につける。美的感性に接続して、自らの作品テーマに取りこむスキルを身につける。その美的感性を追求し、今後の作品制作に供することができる。
サイエンスアート基礎	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L138	後期	◎	◎			◎			「サイエンス」の「美」	まずはごく素朴な自然のすがた、世界とは何か？から発生したサイエンスのすがたを標榜します。ここではサイエンスは「人」で、アートは「自然魔術」です。人の営為は自然や世界に大きな影響をあたえます。その自然への行動のあり方、すなわち「自然魔術」をこれまでどのように発展させてきたのか？この長年の実践こそをサイエンスと言ってもいいかもしれません。狩猟、採集から人類の文化は始まり、やがて自然魔術～サイエンスとなって今日まできました。今日のAIなどのサイエンスからいまこそジャンルを超えて最新科学としての人類学的かつ生態学的な人と自然の関係性を再考察、再検討してゆかねばならないとも考えられます。各講義で、最先端アートであるバイオメディアアートなどの最新情報など事項をあげて科学の本質に迫り、今後のアートに挑戦してゆきます。	サイエンスなセンスとアプローチを身につける。美的感性に接続して、自らの作品テーマに取りこむスキルを身につける。その美的感性を追求し、今後の作品制作に供することができる。
データサイエンス入門	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L139	後期	◎	◎				◎		統計的な事象から見えるデータサイエンスについて	実際の入手できる身近なさまざまなデータから、基本的な数学的発想と統計的手法～AI的発想から、数値上のなんらかの性質や規則性あるいは不規則性さえもを見いだし、まずは初歩的な数学的議論から始めます。そのような統計的手法と発想は、実験のデータを持って示す現象の説明、要約や解釈、他者への説明説得を行う上での根拠を提供する幅広い分野で応用されるでしょう。医学（疫学）、薬学、看護、経済学、社会学、心理学、言語学など、自然科学・社会科学・人文科学のほぼ全分野にわたる実証分析を伴う分野を例にして未来のあり方についての話を進めるための準備をします。また、統計学は哲学の一分科である科学哲学においても重要なひとつのトピックスであることも示します。	最強の学問と言われる統計学的センスを身につけ、今後の作品制作に供することができる。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
メディアアート論	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L140	前期・後期	◎	◎			◎			「メディア」という考え方、美的な表現方法について	基本的なメディアアートの話をします。ジャンルを超えたメディアアートのセンスを身につけ、さまざまなメディアアートの作品制作が可能な素養をめざします。できるだけ身近な基本的なメディアアートの材料、発想と手法を用いて、AIはじめメディアのさまざまな分野の作品制作の可能性を見いだします。そのようなジャンルを超えたメディアアートの手法とは発想は、今後、幅広い分野で有用視されて行くでしょう。ひいては医学(疫学)、薬学、経済学、社会学、心理学、言語学など、自然科学・社会科学・人文科学のほぼ全分野にわたるわかりやすい分野を例にしてメディアアートに関われよう準備を進めます。また、メディアアートは最先端な哲学や心理学においても重要なひとつのトピックスであり、その理論を発展させたメディアアーティストへの格闘を交えて講義します。最先端アートであるバイオメディアアートなどの最新情報もお伝えします。	メディアアートに関わセンスを身につけ、今後の作品制作に供することができる。
先端科学芸術論	選択	2・3・4	講義	1	80CRE2L141	後期	◎	◎			◎			発展中の先端科学芸術という表現、その考え方、芸術性について	基本的な先端科学から接続可能な芸術全般の話をします。基本的な先端科学的なセンスを身につけ、さまざまなジャンルを超えた思考から芸術的発想ができることをめざします。できるだけ身近な基本的な先端科学における芸術の全般的発想と手法を用いて、美術に止まらずAIから音楽へも、芸術全般への可能性を見いだしていきます。そのようないま、発展中の先端科学における芸術全般への手法は、幅広い分野で今後、応用されてゆくでしょう。医学(疫学)、薬学、経済学、社会学、心理学、言語学など、社会科学・人文科学のほぼ全分野にわたるわかりやすい分野を例にして先端科学における芸術全般に関わる話を進めます。また、先端科学における芸術全般への思考は哲学の一分科である科学哲学においても重要なひとつのトピックスであることも理論とそれを発展させた先端科学における芸術全般の現状の研究者の格闘を交えて示します。最先端アートであるバイオメディアアートなどの最新情報もお伝えします。	先端科学における芸術的なセンスを身につけ、今後の作品制作に供することができる。
心理学I	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L142	後期	○	◎						臨床心理学を中心に	この授業では、臨床心理学を中心に、心理学の基礎的知識を学ぶ。具体的に発達障害、摂食障害、心的外傷論等に関して、心理学の学問としての歴史、学問としての方法論を学びながら講義していく。	学問としての心理学の基本的視点を学び、心理的諸現象の多様性を理解し、レポートを作成する能力の獲得。
現代ヘルスケア論	選択	2・3・4	講義	1	80KNW2L143	後期	○		○					「健康」に関する現代的諸問題の基礎的理解と健康づくり	「健康」に関する考え方や諸問題について理解し、心身両面において健康な生活を継続的に送るために必要な基礎的な知識とライフスキルについて学ぶ。講義だけでなく、ペアワークや運動などを積極的に取り入れ、実際に身体を動かしながら学習する。	・授業で学んだ健康に関する用語や概念を理解し、説明できる。 ・自分自身の生活習慣を見直し、改善点を見つけ、実行できる。
写真論特講	選択	2・3・4	講義	1	80EXP2L144	夏期集中		△			○		◎	「写真」を使いこなす	写真論を通して習得した撮影技法を再確認し、カメラを使って実際に撮影しながら、多様化する表現方法のあり方や、その利用方法についての考えを深めていく。	視覚についての知識とカメラのメカニズムを理解し、意図的にカメラをコントロールすることができる
地域文化論I	選択	2・3・4	講義	1	80THK2L145	前期	◎	◎			○			グローバル時代におけるコミュニティと文化	世界的な規模でも、日本国内でも、情報化による文化や社会の均質化が進む一方で、それぞれの地理的・風土的条件を生かした独創的な芸術や文化的創造を生み出す人々がいる。この授業では、「地域」を理解する視点と方法論について学び、その地域から新しいモノ・コトを生み出す方法論を模索する。	具体的な地域を想定して文化的創造を理解し、また構想できること。
中国の文化と言語	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L146	前期・後期	◎						○	中国語と中国語圏の文化について学ぶ	中国語は現在において地球上の主要な言語のひとつであり、中国語を使う人々は地域を超えてグローバルな分布を示している。また中国語によって培われた文化・文明は四千年以上の歴史を持ち、わが国の文化・社会もその揺籃の中で形成されていった。この授業は中国語の特性を知るとともに現在の中国語に焦点をあて、中国語文化圏が擁する膨大な遺産とともに生きて動いている中国語文化に注意を促す。	中国語でコミュニケーションできる基礎と中国語の文構造の基本を学び、中国語圏の文化と社会について認識できること。
韓国の文化と言語	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L147	前期・後期	◎						○	韓国語と朝鮮半島の文化について学ぶ	韓国語(朝鮮語)は日本人にとって最も身近な言語であり、日本と朝鮮半島は古い交流の歴史を持っている。隣国の言語と文化を学ぶことなしに日本人の正確な自己認識はありえない。この授業では韓国語の概要を学ぶとともに、ポップカルチャーを含めた朝鮮半島の文化について正しい認識を持つことを目標とする。	韓国語でコミュニケーションできる基礎を学び、朝鮮半島の文化と社会について正しい認識の基礎を築くこと。
イタリアの文化と言語	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L148	後期	◎						○	イタリア語とイタリアの文化について学ぶ	イタリア語はラテン語を母語として派生した主要な言語であり、ルネサンス以降のヨーロッパの芸術・デザイン、ひいては芸術史そのものを理解するために不可欠な言語である。ヴェネツィア・ピエナーレに見られるように、過去だけでなく現代アートシーンにあってイタリア語とその文化は世界のあらゆる地域に刺激を与えている。授業では、旅行や短期留学などで使える基本的なイタリア語の表現と、言葉の背後にある文化を学ぶ。	旅行や短期留学などで使える基本的なイタリア語を話し、読むことができる。
フランスの文化と言語	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L149	前期・後期	◎						○	フランス語とフランス語文化圏について学ぶ	ヨーロッパ文明の中にあってフランス語とフランス文化は常に枢要な地位を占めてきた。フランス語は「明晰ならざるものはフランス語にあらず」という精神の中で洗練を重ねてきた言語であり、それを学ぶことは大きな知的快感を学習者に与える。またフランス文化と芸術は近代以降の日本と世界に大きな影響を与えてきた。すなわちフランス語とフランス語圏の文化を学ぶことなしに近現代の文化・芸術を知ることは不可能である。この授業ではフランス語の基本的な構造を学ぶとともに実践的な語学能力を培い、同時にフランス語圏文化について正確な知識を学ぶものである。	フランス語の基礎的な能力を「読む」「聴く」「話す」「書く」の全領域にわたって身につけ、同時にフランス語によって実現された文化について幅広く知識をもつこと。
ドイツの文化と言語	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L150	後期	◎						○	ドイツ語とドイツ語圏の文化について学ぶ	ドイツ語はゲルマン語系の主要な言語のひとつであり、ドイツ語が育んできた文化・芸術は多彩かつ豊富である。この授業ではドイツ語の文構造の基本までを学ぶとともに、ふだん知る機会のないドイツ語文化への入門的な案内を果す。	ドイツ語の基本的文構造と日常的な会話を理解することができ、ドイツ語文化圏に具体的に親しみを持てること。
中東(ペルシャ語)の文化と言語	選択	2・3・4	講義	2	80KNW2L151	前期	◎						○	中東の言語と文化について学ぶ	グローバル化に伴って、日本は急速に外国人との共生が求められ、実際にその状況が進行している。その中で、欧米圏もしくはアジア各地域からの人々にもまして、これから存在感を増してくるのは中東からの人々である。言語・宗教を異にする人々とコミュニケーションし、その社会や文化を理解することは今後の日本にとって最重要の課題と言ってよい。この授業では中東地方の言語と文化について基本的な知識が得られることを目標とする。	中東地方の言語と文化について基本的な知識を得ること。その上で積極的なコミュニケーションへの姿勢を取ることができること。
芸術特別演習I	選択	2・3・4	演習	2	80CRE2S152	前期				○	◎	○	○	芸術の可能性を社会に問う	社会的課題を問うメソッドは生まれては消え、消えては生まれている。その新しい価値を再考することを通じて、社会に芸術の可能性を問う	新しく埋めれるメソッドや価値を活用し、社会を捉える視座を獲得すること。
芸術特別演習II	選択	2・3・4	演習	2	80CRE2S153	後期				○	◎	○	○	芸術の可能性を社会に問う	社会的課題を問うメソッドは生まれては消え、消えては生まれている。その新しい価値を再考することを通じて、社会に芸術の可能性を問う	新しく埋めれるメソッドや価値を活用し、社会を捉える視座を獲得すること。
芸術特別演習III	選択	2・3・4	演習	2	80THK2S154	前期	○	○		○				芸術の可能性を社会に問う	社会的課題を問うメソッドは生まれては消え、消えては生まれている。その新しい価値を再考することを通じて、社会に芸術の可能性を問う	新しく埋めれるメソッドや価値を活用し、社会を捉える視座を獲得すること。
芸術特別演習IV	選択	2・3・4	演習	2	80THK2S154	後期	○	○		○				芸術の可能性を社会に問う	社会的課題を問うメソッドは生まれては消え、消えては生まれている。その新しい価値を再考することを通じて、社会に芸術の可能性を問う	新しく埋めれるメソッドや価値を活用し、社会を捉える視座を獲得すること。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
芸術特別演習V	選択	2・3・4	演習	2	80THK2S154	前期	○	○		○				芸術の可能性を社会に問う	社会的課題を問うメソッドは生まれては消え、消えては生まれている。その新しい価値を再考することを通じて、社会に芸術の可能性を問う	新しく埋めれるメソッドや価値を活用し、社会を捉える視座を獲得すること。
学際領域特講I	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	前期	○	○	○	○				芸術と社会を学際的な視点で捉える	社会的課題を問うメソッドは生まれては消え、消えては生まれている。様々な学問を横串で貫き学際的な視点で社会を捉える視座をひろげる	現代社会を捉える多様な視座を獲得すること
学際領域特講II	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	後期	○	○	○	○				同上	同上	同上
学際領域特講III	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	前期・後期	○	○	○	○				同上	同上	同上
学際領域特講IV	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	後期	○	○	○	○				同上	同上	同上
学際領域特講V	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	前期	○	○	○	○				同上	同上	同上
学際領域特講VI	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	後期	○	○	○	○				同上	同上	同上
学際領域特講VII	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	前期	○	○	○	○				同上	同上	同上
学際領域特講VIII	選択	2・3・4	講義	2	80THK3L157	後期	○	○	○	○				同上	同上	同上
学際領域演習I	選択	2・3・4	演習	2	80THK3L157	前期	○	○	○	○				芸術と社会を学際的な視点で捉える	社会的課題を問うメソッドは生まれては消え、消えては生まれている。様々な学問を横串で貫き学際的な視点で社会を捉える視座をひろげる	現代社会を捉える多様な視座を獲得すること
学際領域演習II	選択	2・3・4	演習	2	80THK3L157	後期	○	○	○	○				同上	同上	同上
ビジネス企画入門I	選択	1・2・3	講義	1	80KNW2J185	前期	◎	○			○			商品や作品を顧客が購入する理由 はなにか？顧客ニーズの理解を通じて学ぶ「ビジネス企画入門」	人は「なぜ」その商品（作品）を欲するのか？を起点に、顧客の「ニーズ」を深く理解し、本当に欲しいと思わせる商品（作品）を生み出すための思考法や手法をビジネスの観点から学習する。この授業で学ぶビジネス企画の基礎は、芸術活動で生きていくことを目指す学生にとっては自らの作品を世に出すことを、就職先で新しい挑戦をする学生にとっては自らの人材価値を高めることを、そして起業することを目指す学生にとっては提供する商品／サービスを考えてこれからの生き抜いていくための基礎スキルとなる。	商品（作品）が顧客に選ばれている理由をとらえる基礎的な思考法や手法が身についている。また、そのビジネスの観点で自らのキャリア目標（芸術家、就職、起業等）を表現できる基礎的な能力を獲得できている。
芸術史講義（日本）I～IV	選択	1・2・3・4	講義	2		前期集中 夏期集中 後期集中	◎	◎						I. 日本の造形芸術の成立から平安時代、鎌倉時代までの展開 II. 日本の造形芸術の近世および近代の絵画・工芸 III. 日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れ IV. 江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能	I. 日本美術史を専門的に学習するために必要とされる基礎的な知識を身につけることです。その上で、縄文から鎌倉時代までを通史として概観することによって、これらの時代の芸術作品に通底する特徴を見出すことを目指します。 II. 日本の美術史を体系的に学びます。主に室町時代から江戸時代における芸術をとりあげ、彫刻、絵画、工芸の各領域にわたってその歴史の流れを把握し、また個々の作品についても制作された活動や歴史的背景について考察します。 III. 古代の『万葉集』から近世の俳句にいたる歌や文学作品、あるいは能や狂言を採りあげて、日本芸能の流れを通史として概観します。そして各時代、各地域を象徴する作品の様式や技法といった基礎的な知識を修得します。つぎに個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の政治、経済、宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。 IV. 江戸期から明治期までの文芸活動や、歌舞伎・浄瑠璃などの芸能の流れを概観します。特に近世に花開く町人文化としての戯作・歌舞伎や落語などの話芸、また各地域に伝承される民俗芸能などを中心として、個々の文学作品や芸能が生み出された背景を、当時の思想や宗教といった様々な社会状況から多層的に考察します。	I. II. 日本での造形芸術活動の歴史的な流れを正しく把握するとともに、個別の作例について、その造形的特徴や制作の背景について理解することを目指します。 III. 上代から近世に至る歌謡・和歌・音楽・俳諧、物語・日記・随筆・浮世草子、能・狂言について各時代、各分野の流れとそれぞれの特質を把握すること。日本における芸術の流れを総合的に修得すること。 IV. 散文・俳諧といった文学や思想、浄瑠璃・歌舞伎、邦楽・舞踊から祭礼・民俗芸能、落語・講談までの芸能、さらに明治期の文学（散文・詩歌）・思想についてそれぞれの特質を把握と、時代や地域を超えた観点や、近世から近代への移行という視座も併せて習得すること。
芸術史講義（アジア）I～IV	選択	1・2・3・4	講義	2		前期集中 夏期集中 後期集中	◎	◎						I. 中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史 II. 朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史 III. 中国の文学、音楽、舞台芸術についての古代から19世紀までの流れ IV. 朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術	I. 中国の造形芸術の流れを体系的に学びます。各章では当時の歴史的背景を述べるとともに、造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。 II. 朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インド、東南アジアなど、アジア各地の芸術史を幅広く体系的に学びます。各章では各地域・時代の歴史的背景を述べるとともに、著名な彫刻、絵画、工芸、建築、遺跡などを取りあげて、それぞれの地域の造形芸術の流れを具体的に詳しく見ていきます。 III. 主に中国の古典文学、古典音楽や伝統演劇などさまざまな上演芸術をとりあげ、中国のこうした芸術の展開を、映像資料をふんだんに用いながらたどって行きます。 IV. アジア諸地域の文学、演劇、音楽などさまざまな上演芸術の歴史を体系的に学習します。韓国、インド、さらにベトナム、ミャンマー、カンボジア、インドネシア・マレーシア、タイ・ラオスといった東南アジア諸国の上演芸術をとりあげて、各時代・各地域におけるそれらの展開を映像資料をふんだんに用いながら、歴史的に跡づけます。	I. 古代から続く様々なジャンルの中国美術はいかにして成立し、そして展開して行ったのでしょうか。その長い歴史を学ぶことにより、アジアにおける中国の造形芸術の営みを体系的に把握すること、アジアの造形芸術の流れのなかで中国美術の理解を深化させることが目標です。 II. 各時代の国際関係や交易にともなう文化の伝播や交流の歴史があり、それぞれが互いに影響し合って各地域の芸術が成立した経緯があります。それらを正確に理解することがこの授業の目標です。 III. 時代をおいながら、文学史に関しては、他の上演芸術とも関係の深い詩、戯曲ならびに通俗小説に焦点をあてつつ、その流れを把握し、文学とも密接な関係にあった音楽、さらに演劇やさまざまな芸能などがどのように生み出され、発展したのかというその過程を捉える。 IV. 東南アジアのさまざまな芸術を国別に理解できることを目標とします。

科目名	必修 /選択	履修 年次	講義 /演習	単位 数	ナンバ リング	開講期	知 識	思 考 力	行 動 力	倫 理 観	発 想 力	構 想 力	表 現 力	テーマ	授業概要	到達目標
芸術史講義（ヨーロッパ）Ⅰ～Ⅳ	選択	1・2・3・4	講義	2		前期集中 夏期集中 後期集中	◎	◎						Ⅰ. ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開 Ⅱ. 盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史 Ⅲ. ヨーロッパの文学、音楽、舞台の古代ギリシアから18世紀までの歴史 Ⅳ. 18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流	Ⅰ. ヨーロッパ文明の源である、古代エーゲ海文明から、古代ギリシアおよび古代ローマの芸術、そして初期キリスト教時代を経てビザンティン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスへと続く西洋の芸術の道程を、講義映像と映像資料そしてWEBテキストを用いて概観します。さらに各地域、各時代の芸術作品にみられる様式の比較を行い、その変遷を通史のなかに跡づける作業をおこないます。 Ⅱ. 盛期イタリア・ルネサンスのミケランジェロの芸術から、ヴェネツィア派の美術、15・16世紀のネーデルラントとドイツの芸術、さらにマニエリスム、バロック、ロココ、フランスの新古典主義、ロマン主義とレアリスム、印象派、これらそれぞれの芸術の関係性と特徴について解説をおこないます。 Ⅲ. ヨーロッパにおいて、古代ギリシアから18世紀後半の啓蒙主義の時代までに生み出された、上演芸術に関するさまざまな文学作品あるいは文芸理論についてとりあげます。その歴史を通史として概観すると同時に、個々の作品や作家に関する基礎的な知識を身につけることで、上演芸術について考察する能力を培います。その上で、上演芸術が演劇、美術、音楽、文学、舞踏からなる総合芸術であることを学びます。 Ⅳ. 西洋の上演芸術を、18世紀後半から19世紀末までの約150年間にわたって概観し、ドイツ、イタリア、イギリス、フランス、ロシア、アメリカなどで生じた様々な作品についての基礎的な知識を修得します。特にハイドンやモーツァルトに代表される古典派音楽から、ゲーテなどのロマン主義の文学、さらにはイタリア・オペラ、あるいはワーグナーやチェーホフそしてワイルドの作品などを採りあげます。個々の作品の背景にある芸術動向について学習した上で、それらの上演芸術を分析し、近代という時代の特殊性に関して考察します。	Ⅰ. 各地域・各時代に生じた芸術動向を典型的に示した作品にかんする基本的な情報を学んでいただき、作品を様式的に捉える能力を身につけていただきます。 Ⅱ. イタリア盛期ルネサンス芸術を完成に導いたとされるミケランジェロから、ポスト印象派の芸術までを通史として把握していただきます。イタリアを中心にさまざまな地域で生起し、その後、多様な展開を遂げた数多くの作品の基礎的な知識を身につけると同時に、各時代、各地域の作品を比較して、それらの様式的な特徴についても理解してください。 Ⅲ. この講義の前半では、ギリシア文学、ギリシア哲学、ローマ文学、キリスト教文学、ルネサンス文学、人文主義といったヨーロッパ文化の「土台」というべきものを学びます。どれも近現代の西洋文化が成立するうえで欠かせない要素です。デカルトの哲学は何を変えたのでしょうか。「小説」というジャンルはどのように生まれていくのでしょうか。こうした変遷をしっかりと時代の流れのなかで捉えてください。 Ⅳ. 西洋文化の重要な要素がどのように形づくられ、どのように変化していくか、全体の流れのなかで総合的に理解すること。さまざまな作家、さまざま芸術家に出会い、個々の作品に親しむ機会を設けて、個々の作品を様式的に捉えたうえで、その作品の特性を理解すること
芸術史講義（近現代）Ⅰ～Ⅳ ※ツリーに含んでいない	選択	1・2・3・4	講義	2		前期集中 夏期集中 後期集中	◎	◎						Ⅰ. 20世紀初頭から今日まで、おもに西洋で生じた様々な芸術動向に関する基礎的な知識を学ぶと共に、目まぐるしく変わる近現代の芸術作品、その様式の多様性についても紹介します。絵画・彫刻・建築といった既成のジャンルを横断するような作品の出現、あるいは新たなジャンルの誕生など、様式やジャンルの多様性が生み出された背景についても解説します。 Ⅱ. 非西洋世界、おもに日本の明治後期以後の芸術を中心とし、現代の中国および韓国、あるいはアフリカで誕生した近現代芸術にくわえて、写真、工芸、ファッション、女性作家といった今日的な項目を設定して、多様な芸術作品と作家についての基礎的な情報を学びます。非西洋世界の芸術が、社会の近代化によってどのような影響を受け、いかに変化し展開していったのかを、欧米の近代美術との関係を踏まえつつ検討することによって、モダニズム芸術の本質あるいはそれが抱える問題について考察します。 Ⅲ. 20世紀を中心に、19世紀末から現代までの文学と上演芸術について学ぶ科目です。20世紀以降の芸術のなかでも、特に文学と舞台芸術に焦点を当て、それぞれの流れを見てゆきます。 Ⅳ. 19世紀末以降現代までの音楽、映画、さらにマンガやアニメーションなどサブカルチャーについて学習します。20世紀以降の芸術のなかでも、特に音楽、映画、サブカルチャーに焦点を当て、それぞれの流れを見てゆきます。	Ⅰ. 20世紀初頭から現在までの芸術動向の歴史的展開を理解すること。代表的な作家や作品を通して、各時代の芸術運動の理論的基盤と表現手法の特徴を理解すること。受講生一人一人が近現代の芸術表現をめぐる諸問題について自分の考えを深めていくこと。 Ⅱ. 日本における近現代美術の動向とともに中国と韓国の美術の展開、さらにはアフリカ・オセアニアの美術の動きまで、芸術表現のグローバルな広がりを理解すること。従来の西洋中心主義的な美術史だけではなく、多様な地域の表現活動に目を向けることで、そこから派生する今日的な問題意識をはぐくんでいくこと。絵画や彫刻などのいわゆる「高級芸術」だけではなく、写真やデザインなど私たちににとって身近な視覚文化の領域に目を向けることによって、20世紀における芸術文化の変貌や拡張をより多面的に理解していくこと。 Ⅲ. 現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像をとらえることを目標とします。 Ⅳ. 現在進行形のものであるさまざまな芸術動向の全体像をとらえることを目標とします。	